成安造形大学紀要 13, 2022-3

芸術系大学におけるコロナ禍の遠隔授業
―初年次教育および西洋美術史を中心に―

Distance Learning during the COVID-19 Pandemic at Seian University of Art and Design: Focusing on First Year Education and History of Western Art

千速　敏男
Toshio CHIHAYA

芸術系大学におけるコロナ禍の遠隔授業
―初年次教育および西洋美術史を中心に―

Distance Learning during the COVID-19 Pandemic at Seian University of Art and Design: Focusing on First Year Education and History of Western Art

千速　敏男
Toshio CHIHAYA
教授（西洋美術史）

Due to COVID-19, Seian University of Art and Design was forced to offer distance learning in many of its courses, especially lecture courses, in the 2020 and 2021 academic years. In this paper, I will report on the distance learning courses that I taught, such as First Year Education and History of Western Art.

1.　初年次教育の遠隔授業

大学における初年次教育は、1）スチューデント・スキル、2）スタディ・スキル、3）専門教育への橋渡しに分けられるが、本学ではこの３分野を以下の科目群で分担している。いずれも、一年生全員に受講を指定している科目である。

1）スチューデント・スキル
「大学入門１」（前期１単位）・「大学入門２」（後期１単位）
※　キャリア支援科目である「キャリアデザイン概論」と交互に隔週で開講している。

2）スタディ・スキル
「スタディスキル実習１」（前期前半１単位）～「スタディスキル実習４」（後期後半１単位）
※　本学は、１学期間に100分間の授業を14週おこなうことを基本としているが、この「スタディスキル実習」と次の「ファウンデーション実習Ａ」については、７週で完結するクオーター制を実施しており、いずれも、100分間の授業を２時限連続で７週おこない、１単位としている。

3）専門教育への橋渡し
「ファウンデーション実習 A1」（前期前半１単位）～「ファウンデーション実習 A4」（後期後半１単位）
「ファウンデーション実習B1」（前期1単位）・「ファウンデーション実習 B2」（後期１単位）

「ファウンデーション実習C1」(前期1単位)・「ファウンデーション実習 C2」(後期1単位)

※ 「ファウンデーション実習A」では造形活動の基礎、「ファウンデーション実習B」ではPhotoshopとIllustratorを中心としたコンピュータ・リテラシー、学期末に集中授業として開講している「ファウンデーション実習C」では鉛筆デッサンを中心としたリメディアル教育をおこなっている。

これらの科目群のうち、「ファウンデーション実習A」〜「ファウンデーション実習C」は、2020年6月より対面授業を実施することとした。芸術学部芸術学科の1学部1学科からなる本学では、芸術学科のなかを6領域に分けて少人数教育をおこなっているが、この領域における授業(演習および実習)を対面でおこなうのにあわせて、「ファウンデーション実習A」〜「ファウンデーション実習C」も対面で授業をおこなうこととしたのである。「ファウンデーション実習B」と「ファウンデーション実習C」は、すべて対面で授業をおこなった。「ファウンデーション実習A」は、対面授業を基本とし、個別の実習が中心となる授業回は、通学機会を減らすために遠隔授業とした。

これらの「ファウンデーション実習」に対して、「大学入門」は前期7回、後期7回の授業をすべて遠隔でおこなうこととした。この「大学入門」は、200人以上在籍する一年生が全員、大教室に集まる講義型科目だったため、感染症対策上、対面での授業は不可能だったのである。

一方、「スタディスキル実習」は、毎回のグループ・ディスカッションが重要な課題だったので、本来、100分間の授業を2時限連続でおこなう科目だったが、各組を二分し、100分間の授業を1時限だけ対面でおこない、残りの1時限分は遠隔でおこなうことにした。授業は、本来であれば、6人で1グループとし、6グループ(36人)で1組として、6組が6つの小教室(40人定員)に分かれて受講するかたちだったが、これを二分して18人で1組とし、合計12組に編成しなおした。また、グループ・ディスカッションのグループも6人ではなく、4人を基本とした。

以下、それぞれの科目の遠隔授業について説明する。

1.1 「大学入門」の遠隔授業

コロナ禍以前、2019年度の「大学入門」の授業計画は以下のとおりである。いずれも、一年生全員が大教室に集まり、講義を聴くかたちだった。また、授業運営は、複数の教員と事務局が各回の授業を分担し、千速が統括した。千速が担当した部分以外は[教員A]、[教員B]、[事務局]と記載する。

2019年度前期「大学入門1」

第1回　大学周辺の生活情報［事務局］＋大型連休中に鑑賞すべき展覧会の紹介［千速］

第2回　学生会とサークルの紹介［事務局］＋グループワークの意義［千速］

※　前半は上級生たちによる学生会などの紹介。後半に「スタディスキル実習」でおこなうグループ・ディスカッションの意義を説明する。

第3回　関西の美術館、画廊、書店、映画館などの紹介［千速］

第4回　助手の座談会「芸術系大学でどのように学んだか」［教員A＋助手7人］

※　各領域と共通教育センターに所属する助手たちによる座談会。

第5回　レポート対策講座(1)［千速］

第6回　「合評」とは、どのような授業なのか［教員B］

※　芸術系大学である本学では、学期末に各科目で合評をおこなっている。

第7回　大学生として知っておくべき諸問題(1)［事務局］

※　事務局が警察・保健所・労働局・税務署などに講師派遣を依頼しておこなう講演。内容は、年によって異なる。

第8回　比叡のふもと、琵琶湖のほとり：SDGsに取り組む滋賀県［教員C］

2019年度後期「大学入門2」

第1回　時間をじょうずに使おう［事務局］

※　上級生たちによる学生生活の過ごし方の実例紹介。

第2回　英語を学ぼう＋本学の基本理念「芸術による社会への貢献」［教員D］

第3回　レポート対策講座(2)［千速］

第4回　情報をキャッチしよう［教員B］

第5回　卒業生による講演「芸術系大学でどのように学んだか」［千速］

第6回　大学生として知っておくべき諸問題(2)［事務局］

※　事務局が警察・保健所・労働局・税務署などに講師派遣を依頼しておこなう講演。内容は、年によって異なる。

第7回　物語と心［教員A］

第8回　一年間をふりかえって［教員A］

2019年度は90分間の授業を15週おこなうのが基本だったため、

1単位の講義科目である「大学入門」は8回の授業をおこなったが、2020年度からは100分間の授業を14週おこなうのが基本となったので、「大学入門」は7回の授業をおこなえばよいことになった。

上記の授業内容のうち、助手の座談会、公的機関からの講師派遣による講演、卒業生による講演は、対面による授業が実施できないため不可能だった。一方、2020年度から一年生全員に株式会社リアセックによるPROG（Progress Report on Generic Skills）テストを受験させる予定だった。そこで、2020年度は、5月下旬から以下の授業内容を遠隔でおこなうこととした。なお、この内容は2020年度の本学のシラバスとは大きく異なっている。

2020年度前期「大学入門1」
第1回　関西の美術館、画廊、書店、映画館などの紹介［千速］
第2回　レポート対策講座(1)［千速］
第3回　英語を学ぼう［千速］
第4回　PROGテストの受験［事務局］
第5回　社会人基礎力とグループワーク［千速］
第6回　前期をふりかえって［教員A］
第7回　PROGテストの解説［事務局］
※　ほかの授業がない週末の午前中に株式会社リアセックがインターネットを通じて提供するリアルタイム型の解説を受講させた。

2020年度後期「大学入門2」
第1回　本学の基本理念「芸術による社会への貢献」＋SDGsに取り組む滋賀県［教員B］
第2回　助手からのコメント＋学生会・サークル紹介＋時間の使い方［教員A］
第3回　情報をキャッチしよう［教員C］
第4回　レポート対策講座(2)［千速］
第5回　活躍する卒業生たち＋知って役立つ労働法［千速］
第6回　「合評」とは、どのような授業なのか［教員D］
第7回　後期をふりかえって［教員A］

PROGテストの受験と解説が新規の授業内容である。すでに授業で配布する資料などの蓄積があり、遠隔授業の教材の準備にすぐにとりかかれる授業内容から実施するしかなく、本来であれば、前期におこなうべきであった学生会・サークルの紹介や、合評に関する授業が後期にずれ込むなど、授業内容の順序は大きく前後した。また、午後から領域の授業が対面でおこなわれるため、通学時間を確保する必要があり、遠隔授業はすべて、いわゆるオンデマンド型でおこなわなければならなかった。そのため、授業は、教員が送信し

た資料を熟読したり、動画像を視聴したりしたあと、学生が課題のレポートを作成して提出するかたちとなった。

2021 年度は、遠隔授業の 2 年目だったこともあり、コロナ禍以前の授業計画に少し戻すことができたが、PROG テストの日程調整が整わず、授業回数が前期 8 回、後期 6 回と変則的になってしまった。

2021 年度前期「大学入門 1」
第 1 回　PROG テストの受験［事務局］
第 2 回　美術館と展覧会について［千速］
第 3 回　助手からのコメント＋学生会・サークル紹介＋時間の使い方［教員 A］
第 4 回　PROG テストの解説［事務局］
※　後期の「大学入門2」の第1回とみなすことにした。
第 5 回　レポート対策講座(1)［千速］
第 6 回　社会人基礎力とグループワーク［千速］
第 7 回　「合評」とは、どのような授業なのか［教員 B］
第 8 回　前期をふりかえって［教員 A］

2021 年度後期「大学入門 2」
第 1 回　本学の基本理念「芸術による社会への貢献」＋ SDGs に取り組む滋賀県［教員 C］
第 2 回　英語を学ぼう［千速］
第 3 回　情報をキャッチしよう［教員 D］
第 4 回　レポート対策講座(2)［千速］
第 5 回　活躍する卒業生たち＋知って役立つ労働法［千速］
第 6 回　後期をふりかえって［教員 A］

各回の教材と課題レポートの内容は各教員に委ねたが、課題提出の基本的な書式は、ほとんどの教員が千速の書式を参照してくれた。その書式の例として、2021 年度前期の「大学入門 1」第 2 回の課題提出の書式を以下に掲載する。この回は、「美術館と展覧会について」説明した資料（A4 版 8 ページ相当）を読んだあと、課題に答えるかたちの遠隔授業である。なお、学生に提供する資料のフォントは、高等学校までの教科書でなじんでいる游教科書体を基本とし、強調部分などで用いるゴシック体には丸みのあるやわらかい印象のヒラギノ丸ゴ Pro を用いた。

課題

特別展を定期的に開催する関西の主な美術館を 20 館選び、その名称と所在地（○○県○○市）を書き出しなさい。そして、選んだ理由を 400 字前後で書きなさい。

今回、選び出すのは、特別展を定期的に開催する美術館です。所蔵作品を展示する常設展示ではなく、国内外から作品を借りて開催する企画展のほうです。しっかり区別をつけてください。

課題は 4 点満点で採点し、Google Classroom を通じて返却します。なお、Google Classroom では 5 点満点と表示されますが、とくに優れた課題に対して満点以上の評価をすることができるようにするために、あえてそのように設定しています。

課題の提出方法

まず、Word（または Pages など）で課題を作成してください。10 ポイントの明朝体を用い、禁則処理をほどこします。また、形式段落の冒頭を全角で 1 字下げします。一方、形式段落と形式段落の間に行間を空ける必要はありません。次に、完成した課題を PDF ファイルに変換します。ファイル名は「大学入門名列番号氏名第 2 回課題」にしてください。たとえば「大学入門 C1A35 千速敏男第 2 回課題」です。Google classroom に「大学入門 1 ○○」というクラスを作りました。ここに今回の課題をアップしてありますので、それに答えるかたちで課題の PDF ファイルを提出してください。

課題作成にあたっての注意事項

・A4 版縦で入力してください。
（Word であれば、「ファイル」→「ページ設定」→「ページ属性」で、「用紙サイズ」を「A4」に設定し、「方向」を「縦」に設定します。）

・周囲に 25mm 前後の余白ととってください。
（Word であれば、「フォーマット」→「文書のレイアウト」→「余白」で設定します。）

・10 ポイントの明朝体を用いてください。
（Word であれば、「フォーマット」→「フォント」→「フォント」で、「日本語用のフォント」を「游明朝」や「MS 明朝」などの明朝体に設定し、「スタイル」を「標準」に設定し、「サイズ」を「10」に設定し、「英数字用のフォント」を「（日本語用と同じフォント）」に設定します。）

・禁則処理をほどこしてください。
（Word であれば、「フォーマット」→「段落」→「体裁」で、「改行」のところの

「禁則処理を行う」を設定します。）

・右端がでこぼことしないよう、そろえてください。
（Wordであれば、「フォーマット」→「段落」→「インデントと行間隔」で、「全般」を「両端揃え」に設定します。）

・1段落＝1話題＝1中心文を心がけて、形式段落（パラグラフ）のまとまりを考えてください。

・形式段落の冒頭を全角で1字下げします。
（形式段落の冒頭を全角で1字下げすれば、ここで形式段落が変わったとわかるからです。）

・形式段落の最後でのみ改行します。段落の途中では改行しません。

・形式段落と形式段落の間に行間を空ける必要はありません。

・参照文献については、Google Classroomに資料として挙げた「西洋美術史概説A：註と参照文献の書き方」を参照してください。

・下書きを書き終えたら、一つ一つの文を、1）自分の眼で鑑賞して得られた事実、2）なんらかの文献・ウェブサイトなどを参照して得られた情報、3）自分の意見、分けてみてください。2）にあたる文には、すべて註が必要です。

提出期日：2021年5月6日（木）午後5時

大型連休がありますので、今回は提出期日を5月6日までとします。この日時以降に遅れて提出した場合は、遅刻として扱います。また、5月24日（月）午後5時までに提出しない場合は、欠席として扱います。

質問方法

Google formsの次のURLを正しく入力すると、質問を入力するページに行けます。そこで質問してください。

大学入門1質問2　https://forms.gle（以下省略）

課題の解答例

大学入門１第２回　2021 年４月 26 日の課題

1213xxxx　C1A35　総合領域１年　千速敏男

パーソナル・コンピュータで作成しました。

1）京都国立博物館（京都府京都市）
2）京都国立近代美術館（京都府京都市）
3）……
4）……
……
……
20）……

　この 20 点を選んだのは ……
……
……
……
……

以上

以上

「課題の提出方法」のところに「Google classroom に「大学入門１〇〇」というクラスを作りました。ここに今回の課題をアップしてありますので、それに答えるかたちで課題の PDF ファイルを提出してください。」とあるとおり、遠隔授業の資料提供および課題提出には Google Classroom を利用した。本学には「成安情報サービス」という学内 LAN があるが、個別メールを中心としたシステムのため、このシステムを利用して学生からの課題を受け取ることにすると、教員個人のメール・アドレスに膨大な数のメールが届くことになり、混乱を免れない。Google Classroom は、課題の点検にたいへん重宝した。なお、課題提出用のメール・アドレスを別途用意して対応した教員も少なくなかった。

「課題の提出方法」と「課題作成にあたっての注意事項」のところで、ファイル名や入力の書式などを詳細に説明したが、これらの手順がまもられるようになるには、次に述べる「スタディスキル実習」での数回にわたる課題のやりとりが必要だった。高等学校まで

でMicrosoft社のWordになじんでいた学生は、1回か2回の課題のやりとりで手順を理解できたが、初めてWordを使ったという学生のなかには、手順を理解するまでに10回以上のやりとりを必要とした者もいた。また、あきらめてしまい、途中から課題を提出しなくなった者も出た。

この問題に関して、2021年度から、大学が新入生全員にパーソナル・コンピュータ（MacBook Air）を貸与する制度を始めたことは、学生の課題の提出率を一気に高め、また手順の理解度も大きく深めた。2020年5月に新入生を対象としておこなったアンケートでは、$\frac{1}{3}$以上の学生がスマートフォンしか利用できない状況にあったが、大学からのコンピュータ貸与により、この状況が一気に解消したからである。ただし、コンピュータの操作がわからない学生が情報メディアセンターや領域の研究室に殺到し、業務が混乱したのは反省点である。

次に述べる「スタディスキル実習」では、学生が提出した課題に対して個別にメールで指導をおこなったが、「大学入門」では、筆者を含むすべての教員がGoogle Classroomを通じて学生に採点結果を通知し、講評を一斉送信するにとどめた。授業の双方向性を確保するという点では十分だったとはいいがたい。

一方、オンデマンド型の遠隔授業という困難な状況を逆手にとり、新たな試みもおこなった。

2020年度前期第3回および2021年度後期第2回の「英語を学ぼう」では、以下の日本放送協会（NHK）のウェブサイトを利用し、新入生の英語力を概括的に調査することができた。

NHKテキスト英語力測定テスト2020
https://eigoryoku.nhk-book.co.jp
NHKテキスト英語力測定テスト2021
https://eigoryoku.nhk-book.co.jp

いずれの年のテストにおいても、文法・リスニング・会話・語彙のすべての分野で留学生の平均点が日本語を母語とする学生の平均点を大きくうわまわった。これまで、「英語は留学生のほうができる」と実感してきたが、この調査によってそれが実証されたことになる。

また、2020年度後期第3回および2021年度後期第4回の「レポート対策講座(2)」では、新井紀子著『AIに負けない子どもを育てる』（東洋経済新報社, 2019年）に掲載されている基礎的・汎用的読解力（reading skill test: RST）の体験版に取り組ませた。この読解力の調査に関しては、現在、PROGとの相関関係を分析中である。

なお、2020年度後期第5回および2021年度後期第5回の「知って役立つ労働法」では、滋賀県労働局より詳細な教材を提供していただいた。ここに記し、感謝の意を表したい。

1.2 「スタディスキル実習」の遠隔授業

コロナ禍以前、2019年度の「スタディスキル実習」の授業計画は以下のとおりである。すでに述べたとおり、毎回のグループ・ディスカッションが重要な課題であり、6人で1グループとし、6グループ（36人）で1組として、6組が6つの小教室（40人定員）に分かれて90分間の授業を2時限連続で受講するのが基本であるが、それとは別に一年生全員が集まるグループワークも合計3件おこなっていた。

2019年度前期「スタディスキル実習1・2」
第 1 回　紙コップと洗濯バサミを用いた造形ワークショップ(1)
第 2 回　紙コップと洗濯バサミを用いた造形ワークショップ(2)
第 3 回　紙コップと洗濯バサミを用いた造形ワークショップ(3)
第 4 回　ひととなりを知るための25の質問
第 5 回　新聞のしくみとその意義
第 6 回　関西三都：京都・大阪・神戸
第 7 回　関西の美術館を巡るツアー
第 8 回　領域助手の座談会を聞いて
※「大学入門1」第4回の授業内容を受けてグループ・ディスカションする内容。
第 9 回　新書で教養を高めよう
第10回　気になる雑誌をあげてみよう
第11回　フィンガー・フード・コンペの検討(1)
第12回　フィンガー・フード・コンペの検討(2)
第13回　ワークショップ「フィンガー・フード・コンペ」
第14回　ワークショップをふりかえって
第15回　夏休みに見るべき展覧会、読むべき本

2019年度後期「スタディスキル実習3・4」
第 1 回　夏休みに見た展覧会、読んだ本
第 2 回　自分をたとえると
第 3 回　自分のこだわりを図にしてみると
第 4 回　あなたの「ホーム」を教えてください
第 5 回　行ってみたい土地、行ってみたい国
第 6 回　比叡のふもと、琵琶湖のほとり
第 7 回　ワークショップ「身体でコミュニケーション」
第 8 回　ワークショップをふりかえって
第 9 回　都市と田園
第10回　卒業生の講演を聴いて
※「大学入門2」第5回の授業内容を受けてグループ・ディスカションする内容。
第11回　今年の新語・流行語は？

第12回　新聞課題をふりかえる
第13回　充実した大学生活のために
※「大学入門」と「キャリアデザイン概論」の1年間の授業内容をふりかえる内容。
第14回　冬休みに見た展覧会、読んだ本
第15回　大学生は大人か、子どもか？

前期第1回～第3回のワークショップは、この科目を共担するもうひとりの教員の指導のもと、体育館に一年生全員が集まり、2万個をこえる紙コップおよび洗濯バサミを使って造形作品をつくるという内容である。教員側からは最低限の指示しか与えず、互いに初対面の学生が声をかけあい、手探りで共同作業をおこなっていく。グループワークの意義を実感させる授業だった。この授業を受けて、「大学入門1」の第2回の授業で千速が「グループワークの意義」について講義していた。

前期第13回のワークショップは、一年生全員が12組に分かれ、市販のクラッカーの上にそれぞれがくふうした食材をのせた、いわゆるフィンガー・フードを実際に教室で調理し、できあがった料理を見映えよく展示して、調理と展示を競い合うというコンペティション形式のワークショップだった。ワークショップ前の2回の授業で準備のためのグループ・ディスカッションをおこない、ワークショップ後の授業で成果をふりかえるグループ・ディスカッションをおこなっていた。

後期第7回のワークショップは、京都に活動拠点をおくコンテンポラリー・ダンス・カンパニー「モノクローム・サーカス」のみなさんの指導のもと、体育館に一年生全員が集まり、言葉に頼らない身体によるコミュニケーションを体験する内容だった。このワークショップの後の授業でも、成果をふりかえるグループ・ディスカッションをおこなっていた。

以上3件のワークショップとその前後のグループ・ディスカッションの合計9回分の授業が、コロナ禍により実施不可能となった。

また、「大学入門」と連動しておこなっていたグループ・ディスカッションの授業2回も、助手の座談会や卒業生の講演が実施できないため、実施不可能となった。

さらに、感染症対策のため、36人で1組とし、6つの小教室（40人定員）に分かれ、2時限連続でおこなっていた授業は、18人で1組とし、合計12組に再編されて1時限のみおこなう対面授業と、残りの1時限分の遠隔授業に分けることになった。そのため、1時限分のグループ・ディスカッションでは収まりきらず、2回の対面授業に分けなければならないテーマも出てきた。

くわえて、対面授業の再開が2020年6月だったため、前期12回、後期14回（不足分は遠隔授業で補う）という変則的な日程になってしまっ

たため、2020年度の対面授業は、以下のように大きな変更を余儀なくされた。

2020年度前期「スタディスキル実習1・2」
第 1 回　ひととなりを知るための25の質問
第 2 回　新聞のしくみとその意義
第 3 回　関西三都：京都・大阪・神戸(1)
第 4 回　関西三都：京都・大阪・神戸(2)
第 5 回　関西の美術館を巡るツアー(1)
第 6 回　関西の美術館を巡るツアー(2)
第 7 回　自分をたとえると
第 8 回　自分のこだわりを図にしてみると
第 9 回　あなたの「ホーム」を教えてください
第10回　行ってみたい土地、行ってみたい国
第11回　都市と田園
第12回　見るべき展覧会、読むべき本

2020年度後期「スタディスキル実習3・4」
第 1 回　見た展覧会、読んだ本
第 2 回　新書で教養を高めよう(1)
第 3 回　気になる雑誌をあげてみよう(1)
第 4 回　新書で教養を高めよう(2)
第 5 回　気になる雑誌をあげてみよう(2)
第 6 回　有益なウェブサイトを見つけよう(1)
※　後述する事情により遠隔で授業をおこなった。
第 7 回　有益なウェブサイトを見つけよう(2)
第 8 回　比叡のふもと、琵琶湖のほとり
第 9 回　SDGsを考える
第10回　今年の新語・流行語は？
第11回　先輩たちの活動にふれて
※「大学入門2」第2回と第5回の授業を受けてグループ・ディスカションする内容。
第12回　充実した大学生活のために
※「大学入門」と「キャリアデザイン概論」の1年間の授業内容をふりかえる内容。
第13回　大学生は大人である
第14回　大学生は子どもである

「スタディスキル実習」は、教室でのグループ・ディスカションの指導をモーリス・ビジネス学院から派遣された講師にゆだね、千速と共担するもうひとりの教員が各教室を巡回するかたちをとっているが、1年間で25回分の講師派遣料しか予算を組んでいなかっ

たため、やむなく後期の第6回は遠隔で授業をおこなった。2021年度は予算を組み直し、28回分の講師派遣料を確保した。

前期は「関西三都：京都・大阪・神戸」と「関西の美術館を巡るツアー」をそれぞれ2回に分け、外出もままならぬ時期ではあったが、関西における芸術文化の状況を確認させた。後期は、大学図書館も利用できるようになっていたので、新書・雑誌・ウェブサイトを2回ずつ取り上げ、大学生にとって必要な情報源を確認させた。また、大学の所在する「比叡のふもと、琵琶湖のほとり」について調べさせたあと、SDGsに積極的に取り組んでいる滋賀県知事三日月大造氏の対談記事を通じて「SDGsを考える」授業をおこない、「大学生は大人か、子どもか？」をそれぞれ「大学生は大人である」と「大学生は子どもである」というディベート型のグループ・ディスカッションに組み替えた。

2021年度の対面授業は、2020年度の対面授業をふまえて、前期14回、後期14回の授業を本来の日程で実施することができた。

2021年度前期「スタディスキル実習1・2」
第1回　ひととなりを知るための25の質問
第2回　新聞のしくみとその意義
第3回　関西三都：京都・大阪・神戸(1)
第4回　関西三都：京都・大阪・神戸(2)
第5回　関西の美術館を巡るツアー(1)
第6回　関西の美術館を巡るツアー(2)
第7回　自分をたとえると
第8回　自分のこだわりを図にしてみると
第9回　あなたの「ホーム」を教えてください
第10回　行ってみたい土地、行ってみたい国
第11回　比叡のふもと、琵琶湖のほとり
第12回　SDGsを考える
第13回　都市と田園
第14回　休暇中に見るべき展覧会、読むべき本

2020年度後期「スタディスキル実習3・4」
第1回　休暇中に見た展覧会、読んだ本
第2回　新書で教養を高めよう(1)
第3回　気になる雑誌をあげてみよう(1)
第4回　新書で教養を高めよう(2)
第5回　気になる雑誌をあげてみよう(2)
第6回　有益なウェブサイトを見つけよう
第7回　グループ・ディスカッションのテーマを考える
第8回　前回考えたテーマでディスカッションする
第9回　大学入門・キャリアデザイン概論をふりかえる

第10回　ファウンデーション実習Aをふりかえる
第11回　先輩たちの活動にふれて
※「大学入門1」第3回と「大学入門3」第5回の授業を受けてグループ・ディスカションする内容。
第12回　大学生は大人である
第13回　大学生は子どもである
第14回　トレンドをつかむ（去年の新語・流行語は？　ヒット商品は？）

新たに加えた授業内容は、後期第7回と第8回のグループ・ディスカッションのテーマを考え、次の回に考えたテーマでディスカッションするという内容と、「ファウンデーション実習A」の1年間の授業内容をふりかえる内容である。2022年度も、コロナ禍のため、ワークショップはおこなわず、1時限分に短縮した対面授業をおこなわざるをえないと予想されるが、どうにか、それに対応した授業計画を確立できたかと思う。

一方、遠隔授業では、1年間を通して、新聞の社説を要約し、自分の意見を述べるという課題を課した。2時限連続で対面授業をおこなうことのできた2019年度までは、学生が持参した新聞記事の内容を互いに紹介するというグループ・ディスカッションを授業の冒頭におこない、原稿用紙に記事の要約と自分の意見を手書きさせた課題を提出させてきたが、この課題を受け継ぐものである。以下に、2021年度前期の第1回の課題を掲載する。

―― 2021年度前期「スタディスキル実習1」第1回課題より ――

スタディスキル実習1　遠隔授業課題第1回

新聞の社説を要約し、自分の意見を述べる

2021年4月16日　千速敏男

「スタディスキル実習」では、1年間を通して、社説を読み、その内容を要約し、自分の意見を述べる」という自宅での課題を課します。大学を卒業して社会に出たとき、社会のことがわからないと、とまどうことが少なくないからです。また、成安造形大学の基本理念は、「芸術による社会への貢献」です。社会のことがわからなかったら、どのように貢献したらよいのかもわかりません。

新聞は、世の中の出来事を中立な立場でできるだけ正確に人々に知らせる役割を果たしていますが、その一方で、「新聞の顔」とも呼ばれる「社説」欄では、新聞社の考えや意見も発表しています。毎日、論説委員と呼ばれるベテランの記者たちが、どのようなテー

マを採りあげるべきかを話し合い、分担して社説を書いています。この社説に採りあげられるテーマは多種多様ですが、いずれも今、世の中で重要なことばかりです。そこで、この社説を利用して、記事を要約し、自分の意見を述べる練習をしてみましょう。

今、暮らしているところで新聞を読むことができる人は、新聞の第三面、つまり3ページ目を開けてみてください。そこに、線で囲んで強調した大きめの記事が2つほど並んでいると思います。これが社説です。「社説」(『産経新聞』の場合は「主張」)と題名もついていると思います。新聞によっては、第二面、つまり2ページ目に掲載されていることもあります。社説は毎日掲載されるので、1週間では10本以上の、そして1ヶ月では50本以上の社説が書かれていることになります。

最近は、インターネットで社説を読めるようになりました。今、暮らしているところで新聞を読めない人は、インターネット上の新聞社のウェブサイトで社説を読んでください。日本の代表的な全国紙と関西の主な地方紙の社説のURLを以下に示します。

『朝日新聞』社説
https://www.asahi.com/rensai/list.html?id=16&iref=pc_rensai_top_teiban
『京都新聞』社説
https://www.kyoto-np.co.jp/category/editorial
『神戸新聞』社説
https://www.kobe-np.co.jp/column/shasetsu/
『産経新聞』主張(社説)
https://www.sankei.com/column/newslist/editorial-n1.html
『中日新聞』社説
https://www.chunichi.co.jp/article/column/editorial/
『日本経済新聞』社説
https://www.nikkei.com/opinion/editorial/
※会員になる必要がありますが、無料会員で大丈夫です。
『毎日新聞』社説
https://mainichi.jp/editorial/
『読売新聞』社説
https://www.yomiuri.co.jp/editorial/
※この新聞は紙名を「讀賣」と旧字で表していますが、「読売」で大丈夫です。

「新聞の意義としくみ」については、次回、4月23日(金)の対面授業で扱います。新聞を毎日読む習慣がない人は、次回の対面授業でよく学んでください。

『朝日新聞』、『京都新聞』、『産経新聞』、『日本経済新聞』、『毎日

新聞』、『読売新聞』は、大学図書館と共通教育センター研究室（本館棟2階）で1週間分を自由に読むことができます。芸術や文化、エンターテイメントに関する記事は、夕刊や土曜・日曜の朝刊によく掲載されます。こまめにチェックしてください。

では、課題です。上記の社説のページのなかから1つ選び、その内容を200字以上400字以内で要約したのち、自分の意見を200字以上400字以内でまとめてください。今、暮らしているところで新聞を読むことができる人は、自分が読んでいる新聞の社説欄も含めて選んでかまいません。また、一時帰省している人は、上記の新聞だけでなく、地元の地方紙を利用してもかまいません。あまり古い社説だと、まさに時代遅れですから、2021年3月1日以降の社説から選ぶことにしましょう。

課題は、以下のように作成してください。

学籍番号、名列番号、領域、学年、氏名を記したら、次の行に、この課題を作成するときに利用した機器について「大学貸与のコンピュータで作成しました。」、「私物のコンピュータで作成しました。」、「スマートフォンで作成しました。」、「タブレットで作成しました。」など、わかりやすく書いてください。今後の参考にいたします。

新聞名と日付、見出しを忘れないようにしましょう。これらが欠けると、どの新聞のいつの社説なのか、わかりません。

要約と意見、それぞれの文字数を明記してください。

要約は1つの形式段落にまとめましょう。形式段落とは、話題ごとのまとまりです。つまり、1形式段落＝1話題です。社説を要約したということは、社説の内容を1つの話題にまとめたということですから、形式段落は1つでよいことになります。

一方、意見も、たいていの場合は言いたいこと、すなわち話題が1つのはずですから、形式段落は1つでよいことになります。ただし、言いたいことが2つある場合は、意見は2つの形式段落になるかもしれません。とはいえ、400字以内という分量の制約がありますから、言いたいことを2つ、3つと述べるのは、むずかしいかもしれません。

最後に、要約と意見の文字数をそれぞれ記してください。

スタディスキル実習１第１回　2021年4月16日の課題

1213xxxx　CIA35　総合領域１年　千速敏男

大学貸与のコンピュータで作成しました。

『京都新聞』2021年3月5日の社説
見出し「就活解禁　長期的な視点で採用を」

要約（365字）
……
……
……
……

意見（371字）
……
……
……
……

以上

「形式段落」については、以下の木下是雄著『レポートの組み立て方』（筑摩書房，1994年）の説明を参照してください。木下氏は、日本語の「段落」があいまいな使われ方をしているので、あえて「パラグラフ」という外来語を用いていますが、この「パラグラフ」は「形式段落」のことです。

4.5　パラグラフ── 説明・論述文の構成単位

段落という日本語があるのにあえてパラグラフということばを使うには理由がある．その解説からはじめよう．

4.5.1　パラグラフとは何か

段落という概念は，岩波国語辞典（第4版，1963）が

> 長い文章をいくつかのまとまった部分に分けた，その一くぎり．

と言っているように，かなり漠然としたものだ．新しい段落は，行を変え，アタマを１字さげて書きはじめるのが明治以降のし

きたりである．このしきたりを守って書かれた一くぎりの文の集合を形式段落と呼び，それがさらに意味の上でも一つのまとまりを示している場合には意味段落と名づけるのが国語教育界の慣習らしい．

ここでいうパラグラフ（paragraph）は，一言でいえば

> 文章の一区切りで，内容的に連結されたいくつかの文から成り，全体として，ある一つの話題についてある一つのこと（考え）を言う（記述する，主張する）もの

である．上記の意味段落にやや近いが，パラグラフは，4.5.2節にくわしく述べるように，もっと限定的な性格をもっている．欧文 ── ことに説明・論述文 ── はパラグラフを構成単位としてきちっと組み立てられるので，欧米のレトリックの授業（2.1節）では，文章論のいちばん大切な要素としてパラグラフの意義，パラグラフの書き方を徹底的に教えこんでいる．

極端な言い方をすると，「まず一つ一つのパラグラフをきちっと書き，それらを積みあげ，ゆるぎなく連結して文章を組み立てよ」というのが欧米流の（説明・論述文の）文章作法（さくほう）である．パラグラフを煉瓦，文章を煉瓦建ての家と思えばいい．煉瓦がやわでは堅固な家はできない．

日本式の段落は，いわば一つづきの文章のほうが先にあってそれを便宜的に切ったもの ── という趣があって，パラグラフとは大分ちがうようである．

私は，日本語でも，レポート，論文，取り扱い説明書などの文章は，パラグラフの概念をしっかり把握して，以下に述べるルールを守って書くべきものと信じる．

要約をつくるには、まず、社説の本文のなかで要約づくりに利用できる文や語句を選び、線を引いてみるとよいでしょう。そして、それらを組み合わせて要約をつくります。

また、意見と感想はちがいます。意見が客観的な根拠（事実）にもとづく「考え」であるのに対して、感想は主観的、言いかえれば個人的な「思い」のことです。たとえば、雨が降っているという事実に対して「傘を持っていくとよい」は意見ですが、「ああ、憂鬱だな」は感想です。社説の内容だけで意見をまとめるのではなく、社説の内容に関してインターネットなどで調べてみると、より深く意見をまとめられるでしょう。

課題の提出方法

まず、Word（または Pages など）で課題を作成してください。10 ポ

イントの明朝体を用い、禁則処理をほどこします。また、形式段落の冒頭を全角で1字下げし、形式段落と形式段落の間に行間を空けないでください。

次に、完成した課題をPDFファイルに変換します。ファイル名は「スタディ名列番号氏名第1回課題」にしてください。たとえば「スタディCIA35千速敏男第1回課題」です。

Google classroomに「スタディ前期〇組」というクラスを作りました。ここに今回の課題をアップしてありますので、それに答えるかたちで課題のPDFファイルを提出してください。

大学が貸与するMacBookAirで在学中、Microsoft社のWordが自由に使えますので、活用してください。また、下記のMicrosoft社が提供するウェブサイトでWordの使い方を説明しています。

Microsoft社「はじめてみよう Office - Word編」
https://www.microsoft.com/ja-jp/atlife/article-kids-office-word.aspx

このほか、「Word禁則処理」などでインターネットを検索すると、使い方を説明してくれるウェブサイトがいくつも見つかるはずです。Microsoft社以外のウェブサイトの場合は、誤りもあるかもしれませんので、必ず、二つ以上のウェブサイトを参考にしましょう。

課題作成にあたっての注意事項

……（以下省略）……

「大学入門」と同様、課題はGoogle Classroomに提出させ、4点満点（優秀な場合は5点もあり）で採点した結果をGoogle Classroomを通じて通知した。それとは別に、授業の双方向性を確保するため、学生ひとりひとりに対して個別メールで指導もおこなった。

その内容は、当初は、「明朝体で入力してください。」、「右端をそろえてください。」、「英数字は半角で入力してください。」、「横書きの小数点は全角のナカグロ（・）ではなく、半角のピリオド（.）で入力します。」、「横書きの数字は半角のアラビア数字で入力してください。」といった入力の書式の手順が中心であったが、やがて、「感想ではなく、より具体的な提案型の意見を考えましょう。」、「心構えにとどまらず、より具体的な提案型の意見を考えましょう。」、「解説ではなく、主体的な提案型の意見を考えましょう。」、「要望型の意見ではなく、提案型の意見を考えましょう。」、「提案が思いつきにとどまっています。この提案を実現するための具体的な方法を考えましょう。」といった提案型の意見を促す内容が中心となった。

これは、本学の基本理念「芸術による社会への貢献」にもとづくものである。

この指導の個別メールは、用意した指導文案をコピー・アンド・ペーストして作成したが、毎週、200件ちかい課題を採点して個別メールを作成するのは、正直なところ、過酷な作業だった。しかし、その効果は予想以上であり、入学当初は、形式段落の意義もわからず、ゴシック体のベタ打ちで提出された課題が多かったが、比較的早い時期に、話題ごとに形式段落を分け、形式段落の最初を一字下げし、明朝体で入力した課題がほとんどになった。また、内容に関しても、当初は、好き嫌いや不満といった感想が多かったが、自分なりに調べて具体的な提案を考え出せるようになってきた。

上掲の第1回の教材で掲載したとおり、形式段落（パラグラフ）について、木下是雄著『レポートの組み立て方』（筑摩書房，1994年）の説明を紹介し、「大学入門」における2回の「レポート対策講座」でもこの木下氏の名著を中心に、木下氏も参画する言語技術の会編『実践・言語技術入門：上手に書くコツ・話すコツ』（朝日新聞社，1990年，朝日選書）からの抜粋などを資料として提供したが、残念ながら、入学当初には、1形式段落（パラグラフ）＝1話題（トピック）＝1中心文（キーセンテンス）を意識して文章を書く学生はほとんどいなかった。高等学校までの国語の授業が読解中心であり、授業のなかに文章執筆が採り入れられた場合であっても、主観的な感想を書かせるだけか、大学入学試験を想定した1000字程度の小論文の指導ぐらいだからだろうか。

また、高等学校までの読書体験が乏しい学生は、形式段落の最初を1字下げるというマナーも身についていないようだ。インターネットでは、形式段落の最初を1字下げるのではなく、形式段落と形式段落の間を1行分空けるマナーが主流のためか、それに倣い、ひとつひとつの形式段落と形式段落の間を1行分空ける学生が少なくなかったが、これでは間伸びしたレイアウトになってしまう。さらに、読書体験が乏しい学生にとっては、スマートフォンのゴシック体に親しんでいるせいか、明朝体は読みづらいフォントであるらしい。ふと気づくと、すでに岩波書店は岩波ジュニア新書の本文のフォントをゴシック体にしている。

第2回以降の遠隔授業の教材には、上掲の課題の説明にくわえて、共担するもうひとりの教員とともに毎回、それぞれに講評を掲載した。千速からの講評は、提案型の意見が書けるようになるための助言を中心とし、対面授業でおこなっているグループワークの技能の向上させるための方法などを説明した。グループ・ディスカッションについては、慶應義塾大学教養研究センター監修新井和広・坂倉杏介著『アカデミック・スキルズ グループ学習入門：学びあう場づくりの技法』（慶應義塾大学出版会，2013年）からの抜粋、プレゼンテーションについては、藤沢晃治著『「分かりやすい表現」の技術：意

図を正しく伝えるための16のルール』（講談社，1999年）の抜粋を紹介した。また、ウェブサイトの信頼度の評価については、シルヴァン・バーネット著竹内順一監訳『美術を書く：美術について語るための文章読本』（東京美術，2014年）からの抜粋を紹介した。シルヴァン・バーネットの『美術を書く』の原著は2003年に刊行された第7版であるが、ウェブサイトの信頼度の評価についてきわめて綿密な検討がなされていることに驚かされる。

2021年度になると、前年度をふりかえる余裕も生まれた。2021年度後期の第1回の課題に、復習として前期の講評の重要な学修内容をまとめて掲載したので、以下に紹介したい。

―― 2021年度後期「スタディスキル実習3」第1回課題より ――

● 前期の復習①：意見に「正解」はあるのでしょうか？

新型コロナウィルスのせいで昨年度から遠隔授業を強いられ、社説を要約して自分の意見を述べるという課題を学生のみなさんに課してきましたが、ときおり、「正解を教えてほしい」という声が届きました。はたして、意見に「正解」はあるのでしょうか？ 「正しい意見」はあるのでしょうか？

学習院の小学校から大学までの教職員が集まって国語教育のありかたを研究していた「言語技術の会」が編んだ『実践・言語技術入門：上手に書くコツ・話すコツ』（朝日新聞社，1990年，朝日選書）から、「正しい意見」に関する説明を紹介しましょう。

> ……事実の記述には真（ホントウである、正しい）か、偽（ホントウでない、正しくない）か、という評価が下される ―― この二つの場合以外はない ―― と申しました。これとは違って、意見に対しては無数の評価がありえます。「ワシントンは米国の初代の大統領であった」という事実の記述は真（ホントウ）です。しかし、「最も偉大な大統領であった」という意見に対しては、「そのとおり」、「とんでもない」、「的外れ」等々、人によって評価が違うのは当然なのです。
>
> 事実の記述の〈真〉という判定に対して、意見に〈正しい〉という評価はありうるでしょうか。
>
> 私は、意見が正しい、正しくないという言い方が許されるのは、事実に対する推測、推定の場合だけだろうと思います。「三渓園はいま梅の盛りだろう」という推測は、行って見れば正しいかどうかわかる。「この靴は雨に弱い」かどうかは雨に打たれてみればわかる。そういう場合だけだろうと思うのです（「梅の盛り」、「雨に弱い」という記述にはいくらか主観的な要素がありますが、いまはそのことは問題にしません）。

先ほど説明した狭義の意見――「べきである」というかたちに書かれる意見――にはどれが「正しい」という規準はありえません。この種の意見に対して人がよく「その意見は正しい」などと言うのは、「それは自分の考えに合っている」、あるいは「それが多数意見だ」という意味に過ぎません。私たちはとかく多数意見を〈正しい意見〉と錯覚するきらいがあるようです。前に引用した、

> 意見というのは、何事かについてある人が下す判断です。ほかの人はその判断に同意するかもしれないし、同意しないかもしれません。

という説明は、正に意見というものの本質を衝いているので、よくよく味わってみる価値があります。

前に述べたように、意見は人によって違うのが当然なのですから、意見を書くときには、それが誰の意見かを明示しなければなりません。

日本語の特性として、自分の意見を書くときに、それが自分の意見であることが明らかな場合には、たとえば「私は……はよくないと思う」の代わりに「……はよくない」というような書き方をすることが許されます。しかし私は、原則として「私は……と考える。……と思う」とはっきり書くほうがいいと思います。

誰の考えなのかはっきりしないので問題なのは、「……と考えられる。……と思われる」という言い方、書き方です。この場合の助動詞レル、ラレルは、「当然ノ成リ行キトシテソウイウ考エニナル」、「自然ニソウ思エテクル」という意味の自発の助動詞、または「ト考エルコトガデキル」という意味の可能の助動詞でしょう。これは、当否の最終的な判断を聞き手、読み手にゆだねて、自分の主張をぼかした言い方です。こういう責任回避的な言い方はやめたいものです。

他人の意見を引用するときにはそれが誰の意見かを明示しなければならないことは、いうまでもありません。このことに関連して注意しておきたいのは、いわゆる権威者の意見を引用して、あたかも「権威者の意見だから」当然正しいかのような議論をする人がしばしば見られることです。「誰の意見だから正しい」などということはありえない。

意見は、「何事かについてある人が下す判断」です。ですから、同じ社説を読んでも、「下す判断」は人によってさまざまです。「意見は人によって違うのが当然」なのですから、意見に「正解」はありません。「正しい意見」もありません。「『誰の意見だから正しい』

などということはありえない」のです。

しかし、その一方で、「意見が正しい、正しくないという言い方が許されるのは、事実に対する推測、推定の場合だけ」とも書いてあります。このことにも留意しましょう。事実にもとづいて「下す判断」の場合は、「正しい、正しくないという言い方が許される」からです。最終的に「下す判断」、つまり「『べきである』というかたちに書かれる意見」にいたるまでの「事実に対する推測、推定」については、「正しい、正しくない」という判定ができます。ですから、「事実に対する推測、推定」を「正しく」おこなって最終的な判断、「『べきである』というかたちに書かれる意見」を述べるようにしましょう。

少し複雑に感じられるかもしれませんが、まとめると以下のとおりです。

1) 事実に対する推測・推定は、正しい、正しくないという判定ができる。
2) だから、正しくおこなった推測・推定にもとづいて、最終的な判断、すなわち意見を述べなければならない。
3) しかし、そのようにして述べられた意見は、人によって違うのが当然である。正解はない。

このようにまとめてみると、事実に対する推測・推定を正しくおこなって最終的な判断をしたのに、なぜ、その判断、すなわち意見は「人によって違う」のか、という疑問が浮かぶかもしれません。上掲の『実践・言語技術入門：上手に書くコツ・話すコツ』からの引用には、この疑問に対する答えはありませんので、少しだけ説明をしておきましょう。最終的は判断、意見が「人によって違う」のは、最初に注目する事実に違いがあるからです。たとえば、新型コロナウィルスに感染しても多くの人は無症状か軽症であるという事実に注目する人は、楽観的な意見を述べるかもしれません。しかし、感染して重傷になった人が増えて医療施設が逼迫しているという事実に注目する人は、悲観的な意見を述べることでしょう。事実に対する推測・推定を正しくおこなって最終的な判断をしても、どのような事実に注目するかによって、多種多様な意見がうまれるのです。

「正しい意見」など存在せず、多種多様な意見が成立するのであれば、意見の交換、すなわちディスカッションなど無駄なのでしょうか。そんなことはありません。どのような事実に注目したのかを確かめあい、お互いの意見の根拠を理解することが可能です。お互いの意見の根拠を理解することで、双方の意見をまとめあげる新しい意見をつくりあげることもできるかもしれません。

そして、「正しい意見」こそありませんが、「望ましい意見」はあります。

● 前期の復習②：要望型の意見ではなく、提案型の意見を書きましょう。

では、どのような意見が「望ましい」のでしょうか。それは、議論（ディスカッション）を実りある方向に発展させることのできる意見です。具体的にいうと、提案型の意見は、多くの場合、「望ましい」意見になります。しかし、要望型の意見や否定型の意見は、ほとんどの場合、「望ましい意見」にはなりません。

たとえば、新型コロナウィルスの蔓延により休業を余儀なくされている映画館に関して、意見を述べるとしましょう。「政府はもっと支援してほしい」という要望型の意見は、このままでは議論を深めることができません。政府の担当者たちも、支援が必要なことは重々承知していることでしょう。承知しているけれど、そこまで支援を届けることができないもどかしさのなかで、政府の担当者たちは日々、働いているはずです。ですから、そこに「政府はもっと支援してほしい」という要望型の意見を提示しても、議論を実りある方向に発展させることはむずかしいでしょう。「○○はもっと△△してほしい」という要望型の意見は、テレビや新聞など、さまざまな報道機関で、そしてインターネット上で、よく見受けられますが、あまり実りのある成果にはつながりません。

ましてや、「支援ができない今の政府はダメだ」という否定的な意見は、まったく議論を豊かにすることがありません。日本国内の問題では、こうした否定的な意見はあまり出てきませんが、海外の問題になると、案外、否定的な意見が出てくるようです。

これらに対して、「私たちもクラウドファンディングで支援することができる」という提案型の意見であればどうでしょうか。この提案型の意見であれば、それを受けて、「私たちは芸大生だから、Tシャツのデザインを提供しよう」など、クラウドファンディングの内容を具体的に検討することができます。このように、議論を実りある方向に発展させる意見が、「望ましい意見」です。

社説を要約して意見を述べる課題では、このように議論を実りある方向に発展させる意見を提案するように心がけてください。

● 前期の復習③：新たな事実を見つけ出し、提示する。

5月7日に配信した第4回の資料で、「望ましい意見」について書きました。「望ましい意見」とは、議論（ディスカッション）を実りある方向に発展させることのできる提案型の意見のことです。毎週、みなさんの課題を点検していますが、提案型の意見が少しずつ増えてきました。たのもしいかぎりです。しかし残念ながら、提案型の意見は「少しずつ」しか増えていません。あいかわらず、「……はもっと……してほしい」という要望型の意見が目につきます。なぜでしょ

うか。

新聞の社説は、「○○という事実に対して□□という意見」という図式になっています。ですから、社説に賛同する場合は、「ほかにも◎◎という事実もあるので、私は□□という意見に賛同する。この◎◎という事実から△△を提案したい」という図式をつくることができれば、提案型の意見を述べることができたことになります。一方、社説に異議を唱える場合は、「◎◎という事実があるので、私は□□という意見は成り立たないと考える。むしろ、この◎◎という事実から△△を提案したい」という図式をつくれば、提案型の意見を述べたことになります。ここで重要なのは、社説に賛同するのであれ、異議を唱えるのであれ、「◎◎という事実があるので」と述べる必要があるということです。

提案型の意見を述べるためには、新たに「◎◎という事実」を提示しなければなりません。逆に言えば、「◎◎という事実」を知らなければ、提案型の意見を述べることはできないのです。「◎◎という事実」がないと、社説に賛同する場合には、「私も□□という意見に賛同する。……はもっと□□してほしい」という要望型の意見になりがちです。あるいは、社説に異議を唱える場合には、「私は□□という意見に反対だ」と述べるものの、理由を明らかにできない否定型の意見におちいってしまいます。なぜ理由を明らかにできないかというと、理由にあたる「◎◎という事実」を知らないからです。「私は□□という意見に反対だ。なんか、いやだ！」という最悪の意見になってしまいます。

そこで、「◎◎という事実」を見つけるために、調査（リサーチ）が必要になります。すでに、意見の文章に註をつけ、自分自身で調べたことを註記している学生もいます。たいへん優秀です。

しかしながら、毎回、1週間たらずで「◎◎という事実」を見つけだせるとはかぎりませんね。そういうときには――少し逃げるかたちになってしまいますが――、自分がこれから調べて学んでいかなければならないことを「意見」として述べるというやり方もあります。社説に賛同する場合には、「私も□□という意見に賛同する。新たな提案ができるよう、今後、■■について学んでいきたいと思う」となります。

ただし、社説に異議を唱える場合には、このやり方はあまり使えません。「今は理由をはっきりと述べることはできないが、私は□□という意見に反対だ。今後、■■について学んでいき、はっきりと反対の理由を述べられるようにしたいと思う」となってしまうからです。反対する場合には、やはり理由（◎◎という事実）が必要です。

毎週、社説を読み、自分なりに意見をまとめることで、みなさんは、学生のうちに学んでおかなければならない「■■について」気づくことができるはずです。この課題を通じて、こうした学修の課題をたくさん見いだしてください。

● 前期の復習④：他者への要望や提案ではなく、自分自身ができることを提案しましょう。

社説に対する意見の表明も、かなり整ったものになってきました。

しかし、あいかわらず、「○○は……してほしい」という要望型の意見も目立ちます。また、「○○は……すべきだ」というかたちの意見も少なくありません。「○○は……すべきだ」型の意見のなかには、「してほしい」を「すべきだ」にかえただけのものも見られます。たとえば、「政府はしっかりと新型コロナ対策をしてほしい」と「政府はしっかりと新型コロナ対策をするべきだ」は、いずれも同じ要望型の意見です。今後は、具体的な提案をともなわない、「してほしい」を「すべきだ」にかえただけの「○○は……すべきだ」型の意見は、要望型の意見とみなして採点します。

「○○は……すべきだ」型の意見を提案型の意見にするには、「この問題に対して、私は……」と続けてみるのもよいでしょう。たとえば、「政府はしっかりと新型コロナ対策をするべきだ。この問題に対して、私は……」どのようなことができますか？　ここから提案型の意見が生まれてくるはずです。アートやデザインを学んでいるみなさんだからこそできることが、たくさんあると思います。たとえば、新型コロナ対策としてビニールの衝立に区切られてしまった学生食堂の殺風景な空間を昼食にふさわしい明るく和やかな空間に変えられないでしょうか？

他者への要望や提案ではなく、自分自身ができることを提案するように努めてください。社会のさまざまな問題に対して、社会の一員である自分自身は何ができるのか、深く考えてみましょう。本学の基本理念は「芸術による社会への貢献」です。アートやデザインを学ぶ自分自身は、社会に対してどのような提案、すなわち貢献ができるのか、日々、意識してください。

● 前期の復習⑤：提案のためには 6W2H を考える。

提案型の意見を考え出すためには、社説が採りあげるテーマに対する「6W2H」を意識するとよいでしょう。「5W1H」は高校までで習ったことがあるかもしれませんが、企画提案を考えるときには、「6W2H」を考えなければなりません。「6W2H」とは、When（いつ）、Where（どこで）、Who（だれが）、Whom（だれに）、Why（なぜ）、What（何を）、How（どのように）、How much（いくら）の8つです。「5W1H」との違いは、Whom（だれに）と How much（いくら）です。企画提案をするときには、だれに対する提案なのか、そして経費はどのくらいかかるのかが重要です。提案型の意見を考えるときには、高校までで習った「5W1H」に加えて、Whom（だれに）と How much（いくら）を意識するとよいでしょう。

● 前期の復習⑥：しっかりと調べましょう。

少しずつ採点基準を上げ、社説が採りあげるテーマに対する感想や解説しか書いていない場合も、他者に対する要望型の意見と同様に、減点の対象にしています。提案型の意見を述べられるよう、しっかりと調べ、しっかりと考えてください。

とくに、しっかりと調べましょう。提案として書いてくださったことが、すでに実施されている施策であることが少なくありません。たとえば、職場でのハラスメントに関する社説を採りあげた学生の多くが、職場で定期的にメンタルをチェックするテストをするとよいと提案してくれましたが、すでに健康診断といっしょにストレス・チェックのテストが実施されています。

また、「自分が知らないことは日本国民全員が知らないこと」ではありません。日本芸術院に関する社説を採りあげた学生のなかに、「日本芸術院は国民に知られていない」と書いた人が散見されました。まだ若いみなさんは知らないことが多いかと思いますが、自分が知らないことは日本国民全員が知らないことではありません。採点していて、思わず、苦笑してしまいました。どうぞ、この機会に日本における美術アカデミーである日本芸術院について調べてください。また、同じく日本におけるアカデミーである日本学士院 ── 昨年の秋にはニュースとしても大きく採りあげられましたね ── についても調べてみるとよいでしょう。

……（以下省略）……

2020 年度、2021 年度とも後期にはいると、学生へ送る個別メールでは、書式に関する指導はほとんどなくなり、その大半は提案型の意見をうながす指導となった。1 年をとおして、新聞の社説を要約し、自分の意見をまとめるという課題に取り組んだ結果、当初は好き嫌いや不満といった主観的な感想しか書かなかった学生たちも、後期の後半になってくると、その多くが社説の内容をさらに調べて自分なりの提案を考えるようになった。

その一方で、文章を書くことを嫌がり、途中からまったく課題を提出しなくなった学生も一定数、出てきた。しかしながら、この状況は、対面授業のなかのグループ・ディスカッションとしておこなってきた 2019 年度までにおいてもみられたものであり、こうした学生の数は、むしろ 2019 年度よりも少なくなった。2019 年度までにおいても課題返却時には教員側から朱字を入れるようにしてきたが、手書きでの対応には限界があった。これに対して、指導文案をコピー・アンド・ペーストして作成する個別メールでは、より詳細に指導することが可能だった。これが奏功したと考えたい。

2.　西洋美術史の遠隔授業

本学では、「東洋・日本美術史概説 A」・「東洋・日本美術史概説 B」・「西洋美術史概説 A」・「西洋美術史概説 B」・「デザイン史概説 A」・「デザイン史概説 B」（各 2 単位）のうち、4 科目 8 単位以上を卒業までに履修することとしている。学生ひとりひとりが選択して履修するのが本来であるが、コロナ禍のために対面での新入生ガイダンスや個別履修相談ができなかった 2020 年度と 2021 年度は、前期に開講する「東洋・日本美術史概説 A」・「西洋美術史概説 A」・「デザイン史概説 A」の 3 科目を一年生全員に受講させ、後期から科目を選択させることとした。このようにしておけば、後期には、順調に履修できた学生は自らの興味にあわせて 1 科目から 3 科目を履修すればよいし、履修できなかった科目のある学生も必要な単位を補いやすくなるからである。

千速が担当する「西洋美術史概説 A」・「西洋美術史概説 B」は、コロナ禍にかかわらず、もとより 2020 年度から授業内容を一新する予定だった。というのも、高等学校までで西洋美術に親しんできた学生が少なくなり、ボッティチェリやラファエロ、モネやルノワールといった画家すら知らない学生がめだってきたからである。そこで、千足伸行監修『新西洋美術史』（西村書店，1999 年）を教科書として、前期の「概説 A」では 19 世紀初頭から 20 世紀前半までの近代美術を扱い、後期の「概説 B」ではルネサンス美術からロココ美術までを扱うことを予定していた。

本来は、毎回、『新西洋美術史』に図版が掲載されている美術作品を中心に 50 点前後の作品を大教室のスクリーンに映写して授業をおこなうつもりだったが、すべてオンデマンド型の遠隔授業となったため、授業運営のありかたを抜本的に考え直さなければならなくなった。無人の大教室のスクリーンに作品を映写して授業をおこなっているようすを動画に撮ることも考えられたが、スクリーンに映写した作品の複製図版をさらに動画で撮影し、それをたかだか 13 インチほどのパーソナル・コンピュータのモニタで見るのでは、美術作品の鑑賞にはならないと思われた。また、教員側が用意した動画を早送りで見たり、あるいはまったく見ないまま課題に答えたりする学生が現れることも予想された。

そこで、毎回の授業で扱う美術作品を数点にしぼり、それらの作品をていねいに鑑賞させ、幸いにして領域における対面授業の再開にあわせて開館した大学図書館で美術事典や美術全集にあたらせ、さらに作品を所蔵する海外の美術館のウェブサイトの英語による作品解説を読ませてレポートを執筆させるという課題中心の授業運営に変更した。

2020 年 5 月、ようやく「西洋美術史概説 A」の遠隔授業の第 1 回課題を送信することができた。その内容は、以下のとおりである。

「西洋美術史概説 A」2020 年 5 月 21 日 千速敏男

日本国内の美術館が所蔵する印象派の作品を鑑賞してみましょう

西洋美術史概説 A の授業は、「モネと印象派」から始める予定でした。遠隔授業では、100 メガを超える膨大な画像データをいきなり送信するわけにもいきませんので、ひとまず、日本国内の美術館が所蔵する印象派の作品をインターネット上で鑑賞することにします。これであれば、手元にスマートフォンしかなくても、なんとかできるだろうと思います。でも、コンピュータやタブレットがある人は、なるべく大きな画面のモニタで鑑賞してください。

まず、「印象派」について説明しましょう。西洋美術史学にかぎらず、大学で学問を学ぶときには、まず専門の事典を開けてみてください。大学の図書館にも、たくさんの事典があります。黒江光彦監修『西洋絵画作品名辞典』（三省堂，1994 年）には「絵画の流れ」という付録があり、そこに印象派の説明が書いてあります（20 年以上前に千速が執筆した原稿です）。

> **印象派** Impressionnisme（仏） 19 世紀後半のパリで活動した前衛的な美術運動。伝統的なアカデミーの規則から逸脱して、現実の生活や自然の情景を好んで描く。クールベのレアリスム、バルビゾン派の外光描写、マネの明るい色彩とモダニズムなどに直接啓発される。色彩分割を用いた小さな筆触が視覚のなかで混合され、明るいパレットを生み出した。写真家ナダールの仕事場で開かれた彼らの最初のグループ展（1874）に出品されたモネの《印象 - 日の出》（マルモッタン美術館）にちなんで、印象派の名前が生まれる。1886 年まで 8 回の展覧会をもつ。大気の震えや光の輝きまで描写することにより、ルネサンス以来の写実主義を完成。印象派以後の画家にとって、この写実主義を克服することが最大の課題となった。風景画を追究したモネ、ピサロ、シスレー、都市風俗を描いたドガ、両テーマを扱うルノワール。他にバジール、カイユボット、ギヨマン、女性画家モリゾとカサットなど。

印象派がいつ成立したのか、印象派の主要画家はだれなのか、そして印象派がどのような美術運動だったのかなど、少しわかったことと思います。

大学で学問を学ぶときのポイントのひとつは、専門の事典をいくつか読み比べてみることです。西洋美術史学の場合は、定評のある事典がいくつもありますから、そのなかからコンパクトに説明しているものを選んで紹介することにしましょう。『新潮世界美術辞典』（新潮社，1985年）にはこう書いてあります。

> **印象主義**（いんしょうしゅぎ）impressionnisme（仏）　19世紀後半のフランスに起きた最も重要な絵画運動で、その影響は欧米から遠く日本にまで及ぶ。1874年春にモネ、ピサロ、シスレー、ドガ、ルノワール、セザンヌ等を中心とする一群の画家が官選のサロンに対抗して最初の団体展をパリの写真家ナダールのアトリエで開いた際、新聞記者ルロワ（Louis Leroy）がモネの『印象 - 日の出』（1872、パリ、マルモッタン美術館）をもじってかれらを印象派と呼んだ。第3回展（1877）以降はかれら自身がこれを正式の呼称として採用する。印象派（impressionniste、仏）という名称はこのことに由来し、印象主義なる用語もそこから派生した。印象派展は以後第8回の1886年まで続けられた。印象主義は写実主義を受継いでとくに外光派の戸外制作を重んじ、かつマネに啓発されて明るい色彩を用いながら、外界の事物をその存在感においてよりは光をあび空気で包まれた印象として表現する。したがって絵は主題ではなくモティーフを扱うこととなり、空間の奥行や物の量感を必ずしも強調せず、固有色を否定し、光の変化に応ずる色調の変化や空気のゆれ動きを効果的に描く。その効果を強調すべく筆触を小さく分割し、色調を原色に還元し、また絵具の盛りあげをも辞さない。画面にある程度の未完成感が残るが、それも自然が与える感動（サンサション、sensation、仏）の清新さを伝えるのに役立つ。このような共通の特色をモネ、ピサロ、シスレーは主として風景画において、ルノワールは人物画において発揮した。かれらの制作態度は、直観的感覚的で、必ずしも理論化体系化を志向しない。そのため1880年代以降各画家の個性の進展と円熟に伴い、またスーラやゴーガンなど新世代の登場とも相俟（あいま）って、印象派の運動は様式上の純粋性よりも多様性の度合を強め、他方では理論の裏づけを求める種々の反撥を引き起こすこととなる。しかしその反撥も印象主義の意義の大きさが存してこそ現われるわけで、その意味では言葉を狭義に解釈してマネやドガ等いわゆる“近代生活の画家”たちを印象派から除外する（例えばデュレの説）よりも、広く1860年代から世紀末にいたる創造的な絵画活動を総称するものとして扱う方がよい。また印象主義的な傾向はそれ以前にまったく類例がないわけではなく、例えばポンペイなどに残る古代ローマ絵画における印象主義的様式という風にも用いられる。さらに美術以外の分野に適用されて、音

楽、文学、批評等の用語としても用いられる。

2つの事典に共通して書いてあることがら、たとえば印象派の成立時期や主要な画家などが、重要な内容だと気づくことでしょう。また、『新潮世界美術辞典』のほうが『西洋絵画作品名辞典』よりも大きな事典なので、内容も詳しくなっています。『西洋絵画作品名辞典』には書いてなかった新しい内容にも気づいたと思います。

どちらの事典にも、モネという画家がもっとも重要な画家として登場します。では、モネについて事典を調べてみましょう。『西洋絵画作品名辞典』にはこう書いてあります。

モネ Claude Monet［仏］ 1840 パリ～ 1926 ジヴェルニー
印象派の代表的画家。16 歳のときブーダンから自然の美を直視し、戸外で制作することの素晴らしさを学ぶ。その後、パリのアカデミー・シュイスやC・グレールの画塾等に通い、ルノワールやシスレーらと親好を結ぶ。やがてクールベやマネの感化を受け、自然の外光描写に専念する。1870 年、普仏戦争を避けイギリスに滞在。コンスタブルやターナーの絵に接し、空気遠近法や色彩表現の技法を研究。72 年制作の《印象- 日の出》（第 1 回印象派展）は、74 年反サロン派芸術家たちのグループ展に出品され、印象派という名を生むもととなる。モネは光の大気に対する効果に関心をもち、太陽の光の具合が対象の色調をさまざまに変えるという事実に着目。そこから自然の輝きを画面に定着させるべく、筆触分割や色彩分割と呼ばれる手法を開発。季節や天候の変化に加え、時間の推移によって多彩な表情をみせる自然は、モネの心をつねにとらえて離さなかった。90 年以降、〈積みわら〉、〈ポプラ〉、〈ルーアン大聖堂〉などの連作に着手、すぐれた画才を示す。晩年は白内障を患いながらも、ジヴェルニー邸内の庭の池に浮かぶ睡蓮（すいれん）をテーマに、壁画制作に没頭した。

そして、『新潮世界美術辞典』にはこう書いてあります。

モネ, クロード Claude Monet 1840.11.14 ～ 1926.12.5 フランスの画家で、印象主義の代表的画家。パリに生まれ、ジヴェルニーで歿。幼年時代をル・アーヴルですごし、ブーダンの感化を受けて画家を志し、パリに出てアカデミー・スイスに通い、カミーユ・ピサロと知り合う。1860 年アルジェリアで兵役についたが 2 年後病を得て帰郷。1862 年パリのグレールのアトリエに入り、同門のルノワール、シスレー、バジールらと親好を結ぶ。1865 年クールベ、翌年マネと知り合い、1865-68 年にはクールベ、マネの影響のもとに風景や戸外の人物を描く。普

仏戦争を避けて1870年ロンドンに渡り、ターナー、カンスタブルの作品に感銘を受け、翌年オランダを経て帰国。『印象 - 日の出』（1872、パリ、マルモッタン美術館）は第1回印象派展（1874）に出品され、このグループの名前のもととなった。1875-78年アルジャントゥイユ、78-83年ヴェトゥイユに住んでセーヌ川を中心に制作。原色主義、色調分割、視覚混合などを特徴とするモネひいては印象派の様式は1860年代末からの10年間で十分な展開をみた。1883年ジヴェルニーに移ってから『積みわら』（1891）、『ポプラ並木』（1891）、『ルワン大聖堂』（1894）などのシリーズによって、自然の対象が時間や季節の推移につれて変化する一瞬の様態をとらえ、自邸の睡蓮の池を歿年まで描き続けた。パリのオランジュリー美術館の大装飾画はその代表例で、対象の形態を超えて光の変幻を繊細に色彩化した記念碑的作品である。ジヴェルニーの家と庭園は1980年以来モネ記念館として春から秋にかけて公開されている。

やはり、2つの事典に共通して書いてあることがらが重要な内容だと気づきますね。また、「アカデミー・シュイス」と「アカデミー・スイス」、「ルーアン大聖堂」と「ルワン大聖堂」のように、カタカナが微妙に違うことに、クスッと笑いたくなるかもしれません。

さて、印象派について概略がわかったところで、日本国内の美術館のウェブサイトにアクセスしてみましょう。今回は、印象派のコレクションで著名な美術館として、次の4館を紹介します。それぞれ、印象派の作品の見つけ方を説明しますので、各自、アクセスして鑑賞してください。

国立西洋美術館　https://www.nmwa.go.jp/jp/index.html

東京の上野公園のなかにある国立西洋美術館は、西洋美術館を専門とする国立の美術館です。

トップページのメニューバーの「所蔵作品」をクリックすると、「常設展」「作品紹介」「作品検索」「総索引」とメニューがプルダウンしますから、「作品紹介」を選びます。「作品紹介」のページの「おもな収蔵品」のなかの「19・20世紀（第二次大戦前）」をクリックすると、ウジェーヌ・ドラクロワの《聖母の教育》からはじまる作品一覧が表示されます。印象派の画家を選んでクリックしてみましょう。たとえば、中ほどにクロード・モネの《睡蓮》があります。これをクリックすると、この作品を解説したページにたどりつきます。残念ながら作品の画像データはあまり大きくはないのですが、この作品の意義を理解することはできるでしょう。

もっとモネの作品を調べたいときは、「作品検索」を選びます。今、見ているモネの《睡蓮》の解説ページであれば、左上に「作品検索」

がありますね。また、メニューバーの「所蔵作品」からプルダウンしても「作品検索」が選べます。「作品検索」のページにいくと、いろいろと検索項目が選べるようになっています。特定の画家の作品を調べたいときは、「制作者名」のところに画家のなまえを入力しましょう。「モネ」と入力して検索すると、18件が検出されました。ここで特定の作品を選ぶと、その作品の解説のページにいきます。

国立西洋美術館の礎（いしずえ）を築いたのは、松方幸次郎というコレクターです。メニューバーの「当館について」をプルダウンすると「松方コレクション」という解説のページにいくことができます。ぜひ読んでみてください。

アーティゾン美術館　https://www.artizon.museum

東京駅にほど近いアーティゾン美術館は、ブリヂストンの創業者、石橋正二郎が「ブリヂストン美術館」の名で創設した美術館です。今年、リニューアルオープンに際して、「アーティゾン美術館」に改称しました。アーティゾン（ARTISON）はART（美術）とHORIZON（地平）を合わせた造語だそうです。

トップページのメニューバーから「コレクション」をクリックすると、「コレクション」のページに移ります。この「コレクション」のページにある「西洋近代美術と戦後美術」をクリックすると、次のページに「印象派とその周辺」があります。たとえば、ピエール・オーギュスト・ルノワールの《すわるジョルジェット・シャルパンティエ嬢》を選ぶと、作品図版が拡大され、解説文が表示されます。

国立西洋美術館のように所蔵作品を検索することはできませんが、「SPECIAL FEATURES」に興味深い内容がいくつも掲載されています。この「SPECIAL FEATURES」は、どのページからでも画面をいちばん下までスクロールすると表示されますから、それをクリックしてください。「SPECIAL FEATURES」のページにある「美術家の言葉」のなかでも、セザンヌ、モネ、ルノワールといった印象派とかかわりのある画家たちが紹介されています。

ポーラ美術館　https://www.polamuseum.or.jp

箱根にあるポーラ美術館は、ポーラの創業家二代目、鈴木常司のコレクションをもとに2002年に開館しました。

トップページのメニューバーから「コレクション」をクリックすると、「コレクション」のページに移ります。このページは最初に「コレクションの代表作」が並びます。たとえば、モネの《睡蓮の池》を選ぶと、その解説のページにいくことができます。

ポーラ美術館のウェブサイトでは、所蔵作品を検索することができます。今、見ているモネの《睡蓮の池》の解説ページであれば、ページの左側に「ジャンルで探す」と「作家で探す」があります。トップページからであれば、メニューバーの「コレクション」をクリッ

クして、「コレクション」のページに移り、いちばん下までスクロールすると、「作品を探す」にたどりつきます。「作家で探す」をクリックすると、ポーラ美術館が作品を所蔵する画家の名まえが五十音順で表示されます。「モネ、クロード」をクリックすると、19件が検出されました。ここで特定の作品を選ぶと、その作品の解説のページにいきます。

ひろしま美術館　https://www.hiroshima-museum.jp

広島市中央公園内にあるひろしま美術館は、広島銀行の創立100周年を記念して1978年に開館しました。

トップページのメニューバーから「所蔵作品」をクリックすると、「所蔵作品」のページに移ります。このページでは、「ロマン派から印象派まで」「ポスト印象派と新印象主義」など、テーマごとに主な作家を紹介しています。たとえば、「モネ」を選ぶと、クロード・モネを紹介するページに移り、所蔵作品が掲載されています。

作家について調べたいときは、「所蔵作品」のページで「作家一覧」を選びます。すると、ひろしま美術館が作品を所蔵する作家の一覧に移ります。作家の名前の右にある数字は、所蔵する作品の点数です。モネは2点、ルノワールは6点、所蔵されていることがわかりますね。

以上、印象派のコレクションで著名な美術館4館を紹介しました。では、ここで課題です。

課題

今回紹介した美術館4館が所蔵する印象派の作品のなかから、**印象派の意義を説明するために重要**だと考える作品を10点選び、下の例のように、作者《作品名》所蔵美術館を列記してください。そして、最後に選んだ理由を400字前後で書いてください。

西洋美術史概説 A 2020 年 5 月 21 日の課題

1203xxxx　C1A35　総合領域 1 年　千速敏男

1）クロード・モネ《睡蓮のある池》国立西洋美術館
2）ピエール・オーギュスト・ルノワール《水浴する裸婦》アーティゾン美術館
3）アルフレッド・シスレー《セーヌ河畔》ポーラ美術館
4）カミーユ・ピサロ《パリの大通り》ひろしま美術館
5）……
6）……
……
……
10）……

この 10 点を選んだのは ……
……
……
……
……

以上

課題の提出方法

……（以下省略）……

2020 年 5 月の時点では、大学図書館が開館していなかったため、学生が自宅ですべての作業をおこなえるよう、美術事典の項目などもすべて掲載した。『新潮世界美術辞典』と『西洋絵画作品名辞典』を選んだのは掲載すべき分量が少ないからにすぎない。回が進むにつれて、佐々木英也監修『オックスフォード西洋美術事典』（講談社，1989 年）、青柳正規ほか監修『世界美術大事典』（小学館，1988–90 年）も参照するようにうながした。また、『世界美術大全集西洋編』（小学館，1992–97 年）も参照するようにうながした。

この「西洋美術史概説」も「スタディスキル実習」と同様、課題は Google Classroom に提出させ、4 点満点（優秀な場合は 5 点もあり）で採点した結果を Google Classroom を通じて通知し、授業の双方向性を確保するため、学生ひとりひとりに対して個別メールで指導をおこなった。この指導の個別メールは、用意した指導文案をコ

ピー・アンド・ペーストして作成した。

以後、国内の美術館のウェブサイトで作品を探させたり、海外の美術館のウェブサイトで英語による作品解説を読ませたり、といった基本的な作業を重ねたのち、ひとつの作品について作品解説を書くとか、ふたつの作品を比較して論じるといった内容のレポート（600字以上2000字以内）を課した。

ところで、翌2021年度の第1回の課題もほぼ同じ内容にしたが、「はじめに」という前書きを用意し、課題中心型の遠隔授業であることを説明した。2020年5月の時点では、このような説明が必要なことも思いつかないほど、逼迫した状況にあったと実感する。

――― 2021年度前期「西洋美術史概説A」第1回課題より ―――

はじめに

西洋美術史概説Aの授業は遠隔授業でおこないます。シラバスの「学修システム（履修要項）・カリキュラム」の「授業科目・単位制について」（3ページ）に記載されているように、2単位の講義科目は「30時間の授業時間と60時間の自習時間を合わせた学修」によって単位を修得します。これを毎回の授業にあてはめると、100分間の講義を聴き、200分間の自習をすることになります。今年度は遠隔授業ですので、100分間の講義と200分間の自習を合計した300分間（5時間）が、みなさんが毎回学修すべき時間数になります。毎回、5時間相当の課題を課しますので、しっかりと学修してください。

学修の成果は、課題の提出で確認します。シラバスに記載したとおり、「遠隔授業の課題75%、期末レポート25%」で成績を評価します。遠隔授業の課題は4点満点で採点し、Google Classroomを通じて返却します。なお、Google Classroomでは5点満点と表示されますが、これは、とくに優れた課題に対して満点以上の評価をすることができるようにするために、あえてそのように設定しています。また、期末レポートについては次回に説明します。

課題は、Google Classroomを通じて翌週までに提出してください。期日までに課題を提出することで出席とみなします。課題の提出が期日に遅れた場合は、4週間以内であれば遅刻とみなします。それ以降は欠席とみなし、課題を受理しません。今回（4月15日）であれば、課題の提出期日は4月21日です。4月21日午後5時までに課題を提出すれば、出席になります。そして、4月21日午後5時から5月12日午後5時までに課題を提出すると、遅刻として扱われます。5月12日午後5時以降は、課題を受けとりません。欠席として扱います。最後に「西洋美術史概説A授業計画」の表をつけましたので、参照してください。

シラバスに記載したとおり、「授業に参加する態度を重視し、$\frac{2}{3}$以

上の出席をもって成績評価の対象とします」。遅刻は、出席の$\frac{2}{3}$として扱います。なお、学期末が近づくと、遅刻して提出できる期間が短くなりますので、留意してください。

千足伸行監修『新西洋美術史』(西村書店, 1999年)を教科書とします。これもシラバスに記載したとおりです。書店や通販サイトで購入できますので、必ず入手してください。西洋美術史概説Aは、『新西洋美術史』の「V近代の美術」と「VI現代の美術」の章に準拠して、19世紀から20世紀にいたる西洋美術の歴史を概観します。毎回、少しずつ指定された章節を熟読してください。今回は、第5部第6章の「フランス印象派」(302ページ以降)を読んでください。

『新西洋美術史』にも美術作品のカラー図版や白黒図版が掲載されていますが、さほど大きな図版ではありません。大学図書館で美術全集を閲覧したり、インターネットの所蔵美術館公式ウェブサイトなどにアクセスしたりして、より鮮明な作品画像を鑑賞するようにしてください。インターネット上の情報は玉石混淆です。インターネットで有益な学術情報が入手できるよう、授業の課題を通じて情報収集の技術を高めてください。

また、毎回、展覧会を紹介します。展覧会で作品を鑑賞することは、教室での学修と同等の意義を持ちます。しっかりと感染症対策をして、展覧会で作品を鑑賞してください。

……(以下省略)……

回を重ねるごとに大学図書館も開館し、文献を参照する学生が増えてきたので、2020年度の第3回の課題の最後で註や参照文献の書き方を説明した。その後、内容を補充し、「註と参照文献の書き方」という資料にまとめ、Google Classroom上で閲覧できるようにした。なお、参照文献の書き方は、本来であれば「科学技術情報流通技術基準(SIST: Standards for Information of Science and Technology)」に従うべきであるが ── 木下是雄氏の『レポートの組み立て方』もSISTに準拠している ──、遠隔授業の課題に取り組む一年生には理解がむずかしいと考え、書名は『 』でくくり、記事名は「 」でくくるといった古くから文系で用いられてきた記載方法を紹介するにとどめた。

その一方で、引用・参照した文献の執筆責任者をしっかり確認するようにうながした。2020年度は個別メールで指導を重ねたが、インターネット上の匿名の情報に慣れ親しんできた学生たちには実感がわかないらしい。2021年度は、前期第13回の課題のなかで以下のように注意をうながした。

自分が引用・参照している情報は、だれに責任を負わせるのか？

「だれに責任を負わせる」とは、ずいぶん厳しい言い方ですが、西洋美術史にかぎらず、みなさんが学術的なレポートのために引用・参照した情報は、だれが発信した情報なのか、厳密に判断してください。大げさに言うと、「この学説はだれが唱えたのか」ということです。註記では、情報に「責任」を負う人の名が先頭にたちます。

たとえば、『新西洋美術史』の第 5 部「近代の美術」第 6 章「フランス印象派」は、執筆者一覧にあるように、島田紀夫氏が執筆しています。『新西洋美術史』全体は千足伸行氏が監修していますが、この第 6 章「フランス印象派」に記載されている情報を引用・参照した場合は、島田氏に情報の「責任」があります。したがって、註記は以下のようになります。

島田紀夫著「V 近代美術：第 6 章 フランス印象派」千足伸行監修『新西洋美術史』西村書店，1999 年，302-317 ページ参照。

この場合、監修者である千足氏を先頭にたてると、千足氏が情報の「責任」を負うことになります。つまり、学説の提唱者が島田氏ではなく、千足氏になってしまいます。したがって、誤りです。

誤　千足伸行監修『新西洋美術史』西村書店，1999 年，302–317 ページより参照。

誤　千足伸行監修『新西洋美術史』島田紀夫著「V 近代美術：第 6 章 フランス印象派」西村書店，1999 年，302–317 ページより参照。

これに対して、『新西洋美術史』全体を参照文献一覧に記載するときは、全体に「責任」を負う千足氏のお名まえが先頭にたちます。

千足伸行監修『新西洋美術史』西村書店，1999 年

これは、次に述べる事典の場合にもかかわります。事典全体の「責任」を負うのは、監修者や編集委員などです。編集委員の場合は、以下に述べる『新潮世界美術辞典』の例からもわかるように、何人もの方がかかわっているので、おひとりのお名まえを代表して記載するしかありません。

秋山光和ほか編『新潮世界美術辞典』新潮社，1985 年

とても面倒くさく感じるかもしれませんが、みなさんが大学で学ぶ「学問」は、たいへん厳密な知的営みなのです。そして、高度情報化社会においては、デマやフェイク・ニュースの流布を防ぐために、こうした厳密な知的営みがSNSにかかわるすべての人々に求められています。

事典の編纂には、たくさんの専門家が関わっています。

事典の場合は、非常に多くの執筆者、監修者、編集委員などがかかわっています。たとえば、『新潮世界美術辞典』の巻頭にある「序」を読むと、39人の編集委員が「項目の設定および校訂」にあたり、この編集委員のなかから選ばれた9人が「全体のバランス、項目の新設・統合」などを検討して、「執筆には先に述べました編集委員をはじめ、400人を超える各界の権威ある専門家」があたったとあります。そして、『新潮世界美術辞典』は、「序」の次に3ページにわたって編集委員、執筆者の一覧があります。事典編纂には、このように数多くの専門家が携わるのです。

講談社の『オックスフォード西洋美術事典』、小学館の『世界美術大事典』、三省堂の『西洋絵画作品名辞典』の序文や執筆者一覧をていねいに確認してみてください。

事典の編纂には多くの専門家がかかわるので、事典全体を参照文献一覧などに記載するときには、事典全体の責任を負う人物を確認してください。たとえば、『オックスフォード西洋美術事典』の場合は佐々木英也氏が監修者として事典全体の責任を負い、『西洋絵画作品名辞典』の場合は黒江光彦氏が監修者として事典全体の責任を負っています。それに対して、『新潮世界美術辞典』の場合は、39人の編集委員のなかからさらに選ばれた9人の専門家が、共同して事典全体に責任を負っています。そこで、精確に記載しようとすると、この9人のお名まえを列記しなければならなくなります。しかし、かなり煩瑣になるので、通常は、五十音順で最初になる秋山光和氏のお名まえで代表して「秋山光和ほか編」と記載します。

平凡社の『世界大百科事典』や小学館の『日本大百科全書』は、各項目の執筆者名が項目の最後に記載されていますが、残念ながら、『新潮世界美術辞典』、『オックスフォード西洋美術事典』、『世界美術大事典』、『西洋絵画作品名辞典』は、各項目の執筆者名が記載されていません。そこで、たとえば、『新潮世界美術辞典』の「モンドリアン」の項目を参照用した場合は、以下のように記載することになります。

> 無記名「モンドリアン」秋山光和ほか編『新潮世界美術辞典』新潮社，1985年，1496ページ参照。

この「無記名」を省いて

「モンドリアン」秋山光和ほか編『新潮世界美術辞典』新潮社，1985 年，1496 ページ参照。

としてもかまいません。しかし、

誤　秋山光和ほか編「モンドリアン」『新潮世界美術辞典』新潮社，1985 年，1496 ページ参照。
誤　秋山光和ほか編『新潮世界美術辞典』新潮社，1985 年，1496 ページ参照。

と記載すると、秋山氏が「責任」を負うと誤解される可能性があるので、適切とは言えません。

註や参照文献のどのように記載するかは、大げさに言うと、「この学説はだれが唱えたのか」ということです。とても煩瑣だと思いますが、しっかりと把握してください。

……（以下省略）……

引用･参照した文献の執筆責任者を確認する作業がいかに重要か、くりかえし注意をうながしてきたが、残念ながら、もっとも理解の深まらなかった学習内容だった。匿名の情報に慣れ親しんできた学生たちのなかには、引用・参照した言葉と自分の言葉を区別することの意義すら、最後までよく理解できずにいた者もいた。高度情報化社会といわれて久しいが、情報の信頼性に対する学生たちの無頓着さは、西洋美術史にかぎらず、深刻な問題であると感じられた。

これに比べると、英語に関する問題はまさに「案ずるより産むが易し」だった。2020 年度の第 5 回の課題で、はじめて海外の美術館のウェブサイトの英語による作品解説を読ませることにした。それまでは日本国内の美術館のウェブサイトを閲覧させてきたのだが、新印象主義を扱いにあたってジョルジュ・スーラの代表作が国内になかったからである。以下のように、シカゴ美術館が所蔵する《グランド･ジャット島の日曜日、1884 年》の作品解説を読ませた。

――― 2020 年度前期「西洋美術史概説 A」第 5 回課題より ―――

……（前半省略）……

さて、前回は「ゴーガンとポスト印象派」を先に扱いましたが、今回は「スーラと新印象主義」を扱います。新印象主義の代表者、ジョ

ルジュ・スーラは、残念ながら、日本国内の美術館だけでは代表的な作品を鑑賞するのがむずかしい画家のひとりです。そこで、今回は、初めて海外の美術館の公式ウェブサイトで鑑賞することにします。英語を読みこむことになりますが、高等学校までの学修の成果を発揮してください。手元にスマートフォンしかなくても、なんとかできるだろうと思いますが、コンピュータやタブレットがある人は、なるべく大きな画面のモニタで鑑賞してください。

ジョルジュ・スーラの代表作《グランド・ジャット島の日曜日、1884年》（1884/86年）は、アメリカ合衆国のシカゴ美術館が所蔵する自慢の一点です。スーラはフランスの画家ですから、たとえばパリのオルセー美術館にも名品がありますが、今回は、この《グランド・ジャット島の日曜日、1884年》をとりあげることにしましょう。理由は二つ。スーラのもっとも著名な作品であること。そして、ウェブサイトの読むのがフランス語ではなく、英語ですむことです。

Georges Seurat, *A Sunday on La Grande Jatte - 1884*, 1884/86, Art Institute Chicago.
https://www.artic.edu/artworks/27992/a-sunday-on-la-grande-jatte-1884

シカゴ美術館の《グランド・ジャット島の日曜日、1884年》の作品解説のページを見ると、作品解説のあとに以下のように続きます。

On View	European Painting and Sculpture, Gallery 240
Artist	Georges Seurat
Title	A Sunday on La Grande Jatte - 1884
Origin	France
Date	1884–1886
Medium	Oil on canvas
Inscriptions	Inscribed at lower right: Seurat
Dimensions	207.5 × 308.1 cm（81 3/4 × 121 1/4 in.）
Credit Line	Helen Birch Bartlett Memorial Collection
Reference Number	926.224

これは、作品のデータに関する部分です。日本語に訳すと以下のようになります。

展示場所	ヨーロッパ絵画・彫刻部門、240番展示室
作家	ジョルジュ・スーラ

題名	グランド・ジャット島の日曜日、1884 年
出身	フランス
制作年代	1884–1886 年
素材	カンヴァス・油彩
銘文	右下に銘文：Seurat
寸法	207.5 × 308.1 cm（81 3/4 × 121 1/4 インチ）
寄贈者	ヘレン・バーチ・バートレット記念コレクション
登録番号	1926.224

さらに下に、PUBLICATION HISTORY、EXHIBITION HISTORY、PROVENANCE、CATALOGUES RAISONNÉS、MULTIMEDIA、EDUCATIONAL RESOURCES と続き、それぞれ＋のマークをクリックすると、詳細なデータが表示されます。

PUBLICATION HISTORY は、この作品に言及する文献のデータです。たとえば、上から 2 番目の

> Gustave Kahn, “Seurat,” L’ Art Moderne 11 (April 5, 1891), pp. 107–10.

は、Gustave Kahn（グスタヴ・カーン）という人が L’ Art Moderne（現代の芸術）という雑誌の 11 号（1891 年 4 月 5 日刊行）に Seurat（スーラ）という題名の記事を書いていて、その 107 ページから 110 ページにこの作品への言及があることを示しています。

次の EXHIBITION HISTORY は、展覧会に関するデータです。わかりやすい英語のデータをみてみましょう。いちばん下の

> The Art Institute of Chicago, Seurat and the Making of La Grande Jatte, June 16–September 19, 2004, cat. 80.

は、The Art Institute of Chicago（シカゴ美術館）で Seurat and the Making of La Grande Jatte（スーラとグランド・ジャット島の制作）という題名の展覧会が 2004 年 6 月 16 日から 9 月 19 日まで開催され、その展覧会図録の 80 番（cat. 80）がこの作品であることを示しています。

PROVENANCE は、初めて目にする単語かもしれません。日本語では「来歴」といい、作品が制作されてから現在にいたるまでの歴史（おもに所有の変遷）を記したものです。この作品の場合は、以下のような来歴が明らかになっています。

> By descent to Mme. Seurat, the artist’ s mother (died 1899), Paris, 1891; by descent to Emile Seurat, the artist’ s brother;

sold for 800 francs to Casimir Brû, Paris, 1900; given by him to his daughter, Lucie, Paris, 1900; Lucie Brû Cousturier and Edmond Cousturier, Paris; sold for $20,000 possibly through Charles Vildrac, Paris to Frederic Clay and Helen Birch Bartlett, Chicago, 1924; given to the Art Institute, 1926.

1891年、パリで画家の母スーラ夫人（1899年死去）が相続。画家の兄弟エミール・スーラが相続。1900年、パリでカシミール・ブリュに800フランで売却。1900年、パリでカシミール・ブリュが娘のルーシーに贈与。パリでルーシー・ブリュ・クーチュリエとエドモン・クーチュリエが所有。1924年、おそらくパリのシャルル・ヴィルドラックを通じて、シカゴでフレデリック・クレイとヘレン・バーチ・バートレットに2万ドルで売却。1926年、シカゴ美術館に寄贈。

CATALOGUES RAISONNÉS の RAISONNÉS は、もともとフランス語です。フランス語の raison は、英語だと reason になりますが、「理」という意味です。そこで、CATALOGUES RAISONNÉS は、「合理的に体系化された目録」という意味になります。具体的には、その画家の作品を網羅的に収録した目録、「総作品目録」をいいます。＋をクリックしてみると、「de Hauke 162」とだけ表示されますが、これは PUBLICATION HISTORY のなかにあった以下の文献を指し、

César M. De Hauke, Seurat et son oeuvre 2 vol. (Paris, 1961), no. 162.

パリで1961年に刊行された César M. De Hauke（セザール・M・ド・オーク）による総作品目録『Seurat et son oeuvre（スーラとその作品）』全2巻の162番の作品が、《グランド・ジャット島の日曜日、1884年》であることを表しています。

MULTIMEDIA のところには、IT（情報技術）を用いたさまざまな取り組みが掲載されています。たとえば、Curious Corner は子ども向けの解説です。一方、Audio Lecture では50分を超える講義を聴くことができます。

EDUCATIONAL RESOURCES は、文字どおり、「教材」です。ここでは MULTIMEDIA のところで紹介した50分を超える講義がふたたび紹介されています。

欧米の美術館の公式ウェブサイトがいかに充実しているか、実感できたと思います。

では、作品解説です。今回の課題として、以下の英文を日本語に訳してください。

A Sunday on La Grande Jatte—1884
1884/86
Georges Seurat
French, 1859–1891

"Bedlam," "scandal," and "hilarity" were among the epithets used to describe what is now considered Georges Seurat's greatest work, and one of the most remarkable paintings of the nineteenth century, when it was first exhibited in Paris. Seurat labored extensively over A Sunday on La Grande Jatte—1884, reworking the original as well as completing numerous preliminary drawings and oil sketches (the Art Institute has one such sketch and two drawings). With what resembles scientific precision, the artist tackled the issues of color, light, and form. Inspired by research in optical and color theory, he juxtaposed tiny dabs of colors that, through optical blending, form a single and, he believed, more brilliantly luminous hue. To make the experience of the painting even more intense, he surrounded the canvas with a frame of painted dashes and dots, which he, in turn, enclosed with a pure white wood frame, similar to the one with which the painting is exhibited today. The very immobility of the figures and the shadows they cast makes them forever silent and enigmatic. Like all great masterpieces, La Grande Jatte continues to fascinate and elude. César M. De Hauke, Seurat et son oeuvre 2 vol. (Paris, 1961), no. 162.

……（以下省略）……

英文の翻訳に一年生が対応できるか、若干の心配もあったが、DeepL（https://www.deepl.com）をはじめとするインターネット上の機械翻訳の精度がかなりあがってきたので、機械翻訳の使用を前提として海外の美術館の英語による作品解説を読ませる課題を課してみた。結果的には、杞憂といってよいほどの成果があった。もちろん、英語におそれをなして課題の提出をあきらめてしまった学生もいたが、多くの学生は機械翻訳をたくみに利用し、英語による作品解説の内容をおおむね理解した。

海外の美術館のウェブサイトの英語による作品解説を読ませることが可能だと確認できたので、以後、コートールド美術館、ニューヨーク近代美術館、グッゲンハイム美術館、ウフィツィ美術館、オルセー美術館など、世界各地の美術館のウェブサイトをくりかえし閲覧させた。とくに、2020 年 11 月から 2021 年 1 月にかけて国立国際美術館で開催された「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」と、

2021年11月から2022年1月にかけて大阪市立美術館で開催された「メトロポリタン美術館展」を活用し、ロンドン国立絵画館とメトロポリタン美術館のウェブサイトは、何度も閲覧をうながした。

一方、2020年にはルーヴル美術館のウェブサイトにおける日本語の作品解説を利用することができたのだが、2021年4月にウェブサイトが一新されたときに閲覧不能になったのは残念だった。

このように海外の美術館のウェブサイトの閲覧を強くうながした理由は、日本語によるウェブサイトの情報があまりにも玉石混淆だからである。すでに2020年度の第3回の課題でWikipedia（https://ja.wikipedia.org/wiki/メインページ）を参照した学生が出てきていた。そこで、海外の美術館のウェブサイトの閲覧をうながす一方、第4回と第5回では、日本語によるウェブサイトの情報の学術的な信憑性についても注意をうながした。以下に第5回の課題でうながした注意事項を紹介する。また、以後、学生が課題のなかで学術的な信憑性の乏しいウェブサイトを参照した場合は、個別メールでの指導においてもくりかえし注意をうながした。

――― 2020年度前期「西洋美術史概説A」第5回課題より ―――

……（前半省略）……

最後につけくわえておきます。前回、「日本語のウェブサイトで信頼できるものは、美術館や展覧会の公式ウェブサイトのみと考えておくべきでしょう」と書きました。くりかえしになりますが、インターネット上で気になるページをみつけたら、必ず、そのウェブサイトのトップページにいき、そのウェブサイトの運営者（運営団体）を確認してください。運営者（運営団体）がわからない（あるいはハンドルネームしかわからない）ウェブサイトは、信頼に欠けます。ウェブサイトの運営者（運営団体）が明記されている場合は、その運営者（運営団体）についてGoogleなどで検索してみると、どの程度まで信頼できそうか、判断がつくと思います。たとえば、Artpediaの山田太郎氏に関して、日本の美術史家たちや学会はまったくといってよいほど言及していません。

また、「青い日記帳」氏がブログのトップページで「美術に関しては全くの素人ですのでblogは好き勝手書いています」と表明しているように、内容に責任をもたない旨、明言しているウェブサイトも少なくありません。その代表例が、あのウィキペディアです。ウィキペディアのトップページのいちばん下に小さな文字で「免責事項」とあります。「免責」とは責任をもたないということです。この「免責事項」のページにいくと、「本サイトは、あなたに対して何も保証しません。本サイトの関係者（他の利用者も含む）は、あなたに対して一切責任を負いません。あなたが、本サイトを利用（閲覧、

投稿、外部での再利用など全てを含む）する場合は、自己責任で行う必要があります。利用の結果生じた損害について、一切責任を負いません。」と書いてあります。大学のレポートにウィキペディアを利用したら内容に誤りがあったので落第してしまったとしても、ウィキペディアは「一切責任を負いません」。ほかにも、西洋美術史のレポートによく登場するSalvastyle.comも、トップページで「このサイトで公開されますあらゆる情報において十二分に配慮していますが、万が一、利用者がその提供された情報により障害・損害を負った場合、当方は一切責任を負わないものとします。」と明言しています。

重ねてくりかえしになりますが、日本語のウェブサイトで信頼できるものは、美術館や展覧会の公式ウェブサイトのみと考えておいてください。ほかに信頼のおける情報を提供してくれるウェブサイトとしては、新聞や雑誌といった報道機関の公式ウェブサイトがあげられますが、西洋美術史に関する報道は、あまり多くはありません。最近は、報道機関がいわゆる「ウェブマガジン」を開設していることもあり、千速自身もそういうウェブマガジン（日本経済新聞社の出版部門である日経BP社が運営するウェブマガジン『日経ARIA』など）に携わることがありますが、ウェブマガジンのなかには、信頼性に疑わしいものもあります。たとえば、これも最近の西洋美術史のレポートによく登場するMUSEYとMUSEY MAGですが、「MUSEY MAG」のトップページのいちばん下に「本誌について」とあり、そのページにいってみると、「発行人：石田健」と出てきました。運営に関わる人名が明らかになったので、「石田健MUSEY」でGoogleを検索してみると、大学院で政治学を学び、ヴェンチャー企業を立ちあげた若い経営者のようです。起業家、実業家としては優秀な方かもしれませんが、美術史の専門家としては残念ながら信頼に欠けます。専門家にウェブマガジンを監修させるべきです。

……（以下省略）……

2021年度になると、前年度をふりかえる余裕も生まれ、学術的な情報への接し方を具体的に説明できるようにもなった。以下は、2021年度前期の第9回の課題での説明である。

――― 2021年度前期「西洋美術史概説A」第9回課題より ―――

判断の根拠としての引用・参照

「課題作成にあたっての注意事項」の最後にいつも以下のように記載しています。

下書きを書き終えたら、一つ一つの文を、1）自分の眼で鑑賞して得られた事実、2）なんらかの文献・ウェブサイトなどを参照して得られた情報、3）自分の意見、分けてみてください。2）にあたる文には、すべて註が必要です。

「文献・ウェブサイトなどを参照して得られた情報」については、註をつけ、出典を明らかにしなければなりません。たとえば、オーギュスト・ロダンとクロード・モネが同年齢であるという情報を『新西洋美術史』の361ページの「印象派画家モネと同年に生まれたオーギュスト・ロダン」という記述で知ったとしたら、この記述の執筆者を確認し、以下のように註記することになります。

註1　島田紀夫著「V　近代美術：第11章　19世紀の彫刻」千足伸行監修『新西洋美術史』西村書店，1999年，361ページより引用。

このように「文献・ウェブサイトなどを参照して得られた情報」の一つ一つに註をつけ、出典を明らかにしていくと、1000字前後のレポートであっても数多くの註記が必要になるはずです。下書きを書き終えたら、一つ一つの文を吟味し、しっかりと註記してください。

「課題作成にあたっての注意事項」には「文献・ウェブサイトなどを参照して得られた情報」と書きました。ここでいう「情報」は、「自分の眼で鑑賞して得られた事実」とともに、自分なりの判断をするための根拠となります。

たとえば、アサヒビール大山崎山荘美術館が所蔵するクロード・モネの1907年《睡蓮》（「夢をめぐる」展の出品作です）を鑑賞して、睡蓮の葉にさまざまな色彩の筆触が並置されていることを確認したとします。これは、「自分の眼で鑑賞して得られた事実」です。そして、その後、『新西洋美術史』の314ページの「1870年代前半に、セーヌ河岸のアルジャントゥイユとオワーズ河岸のポントワーズで制作した画家たちの作品には、ひとつの統一した様式を認めることができる。自然の一瞬の姿を、パレットの上で混合しない絵の具の小さな筆触によって、カンヴァス上に定着したのである。」という記述（これも島田紀夫氏が執筆しました）を読んだとします。これは、「文献・ウェブサイトなどを参照して得られた情報」です。これらの「自分の眼で鑑賞して得られた事実」と「文献・ウェブサイトなどを参照して得られた情報」を組み合わせて、以下のような判断をすることができます。

クロード・モネの1907年の《睡蓮》は、睡蓮の葉にさまざまな色彩の筆触が並置されていることがみてとれる。島田紀夫に

よれば、「1870年代前半に、セーヌ河岸のアルジャントゥイユとオワーズ河岸のポントワーズで制作した画家たちの作品には、ひとつの統一した様式を認めることができる。自然の一瞬の姿を、パレットの上で混合しない絵の具の小さな筆触によって、カンヴァス上に定着したのである。」[註1]という。モネは、晩年にいたるまで、この「パレットの上で混合しない絵の具の小さな筆触」による様式を探究し続けたと考えられる。

註1　島田紀夫著「V　近代美術：第6章　フランス印象派」千足伸行監修『新西洋美術史』西村書店，1999年，314ページより引用。

このように、「自分の眼で鑑賞して得られた事実」と「文献・ウェブサイトなどを参照して得られた情報」を組み合わせて、自分なりの判断をくだしていくのが学術的なレポートです。

「自分の眼で鑑賞して得られた事実」だけで学術的なレポートを執筆するのは、判断の材料が乏しいくなりがちなため、かなり困難でしょう。ともすると、「美しい」とか「印象的だ」といった主観的な感想になりがちです。やはり、「文献・ウェブサイトなどを参照して得られた情報」で判断の材料を補う必要があります。

自分なりの判断をくだすときの材料、言いかえると「判断の根拠」を補うためには、手際よく、良質な情報を得ることが大切です。この良質な情報を集約した書物が事典です。西洋美術史に限らず、どのような分野を学ぶにしても、まず、その分野における良質な情報を集約した事典を知らなければなりません。そして、事典にあたることから学習を始めなければなりません。初めて学ぶ分野において、事典にあたらないまま、たまたま目についた本を読んだり、インターネットで情報を検索したりするのは、何が良質な情報なのかわからないので、いたずらに時間を浪費することになります。役立つのかどうかよくわからない、たまたま目についた本を1冊、拾い読みするより、事典を数ページじっくりと読むほうが、短時間ですむはずです。

大学の図書館には、『新潮世界美術辞典』（新潮社，1985年）、『オックスフォード西洋美術事典』（講談社，1989年）、『世界美術大事典』（小学館，1988-90年）、『西洋絵画作品名辞典』（三省堂，1994年）といった定評のある美術事典があります。必ず、複数の事典にあたり、内容を比較しましょう。

また、美術史の分野では、美術全集も事典と同じ役割を担っています。大学の図書館には『世界美術大全集 西洋編』（全28巻，別巻：総索引，小学館，1992–97年）をはじめとする美術全集があります。各自、参照してください。こちらも、ひとつの美術全集で済ませるのでなく、複数の美術全集の作品解説や概説などを読み比べるとよいでしょう。

さて、これまで、「文献・ウェブサイトなどを参照して得られた情報」で判断の根拠を補うと述べてきましたが、実は、この情報は2つに大きく分けることができます。1）事実を記述した情報と、2）執筆者の意見を記述した情報です。

たとえば、『新西洋美術史』の314ページにある「1870年代前半に、セーヌ河岸のアルジャントゥイユとオワーズ河岸のポントワーズで制作した画家たちの作品には、ひとつの統一した様式を認めることができる。自然の一瞬の姿を、パレットの上で混合しない絵の具の小さな筆触によって、カンヴァス上に定着したのである。」という記述は、ひとまず「事実を記述した情報」とみなすことができるでしょう。厳密に考えると、「ひとつの統一した様式を認めることができる」というのは、執筆者である島田紀夫氏の判断なので、「執筆者の意見を記述した情報」です。しかし、「自然の一瞬の姿を、パレットの上で混合しない絵の具の小さな筆触によって、カンヴァス上に定着」させる様式が、「1870年代前半に、セーヌ河岸のアルジャントゥイユとオワーズ河岸のポントワーズで制作した画家たちの作品に」成立したのは、事実ととらえてよいでしょう。

これに対して、「執筆者の意見を記述した情報」もあります。『新西洋美術史』の続く315ページで、島田紀夫氏は、「セーヌ河やノルマンディー海岸などに取材した風景画は、色調分割の技法を厳しく適応して光の反映や大気の震えまでを描こうとした。時間に応じて変化する光の反射の効果を追求して、晩年に連作に到達する。《積み藁》、《ルーアン大聖堂》、《エトルタの断崖》、《テムズ河》、それに《睡蓮》の連作は、モネの印象主義の究極の表現である。」と述べて、モネの説明を終えています。このまとめの部分の、モネの晩年の連作が「印象主義の究極の表現である」というのは、執筆者である島田紀夫氏の判断です。したがって、「執筆者の意見を記述した情報」といえます。

みなさんが判断の根拠を補うために文献・ウェブサイトなどを参照して情報を得るとき、とくに留意しなければならないのは、「事実を記述した情報」と「執筆者の意見を記述した情報」を区別することです。「事実を記述した情報」は、みなさんの判断の根拠としてそのまま用いることができますが、「執筆者の意見を記述した情報」は、そのままでは、みなさんの判断の根拠として用いることができません。事実は判断の根拠になりますが、他者の意見は判断の根拠にならないのです。

たとえば、「Aさんは毎朝、会社に遅刻してくる」という事実があれば、「Aさんは会社員としてはダメな人だ」と判断してもよいかもしれません。しかし、「Aさんは会社員としてダメだ」とBさんが言っているからといって、それを鵜呑みにして「Aさんは会社員としてはダメな人だ」と判断してはいけませんね。なぜ、Bさんが「Aさんは会社員としてダメだ」と判断したのか、その判断の根

拠を尋ねなければなりません。「なぜ、Aさんは会社員としてダメだと思うのですか」とBさんに尋ねたとき、Bさんから「Aさんは毎朝、会社に遅刻してくる」という事実が告げられたら、「Aさんは会社員としてダメだ」というBさんの判断に同意できるかもしれません。さらに、実は、Aさんは毎朝、ボランティアとして近所の独り暮らしのお年寄りの世話をしているので、会社に遅刻していたのだった、Aさんの上司はそのことを知っているので、遅刻することを許していた、という新しい事実が明らかになれば、「Aさんは会社員としてはダメな人だ」という判断もくつがえるかもしれません。新たな事実がわかれば、判断も新たなものになります。

このように、「執筆者の意見を記述した情報」は、執筆者がそのような意見をもつにいたった根拠となる「事実を記述した情報」までさかのぼって考えなければなりません。島田紀夫氏の「印象主義の究極の表現である」という意見の場合であれば、「セーヌ河やノルマンディー海岸などに取材した風景画は、色調分割の技法を厳しく適応して光の反映や大気の震えまでを描こうとした」という事実を確認する必要があります。

執筆者の意見の根拠となる「事実を記述した情報」までさかのぼらずに、「執筆者の意見を記述した情報」をそのまま引用してしまうと、結果的に自分の判断ができなくなります。たとえば、さきほどの例であれば、このようになってしまいます。

誤　クロード・モネの1907年の《睡蓮》は、睡蓮の葉にさまざまな色彩の筆触が並置されていることがみてとれる。島田紀夫によれば、「印象主義の究極の表現である」[註1]という。

註1　島田紀夫著「V　近代美術：第6章　フランス印象派」千足伸行監修『新西洋美術史』西村書店，1999年，315ページより引用。

これでは、島田紀夫氏の判断を紹介しただけです。自分の判断を述べることができなくなってしまいます。

さらに、「島田紀夫によれば……という」を省いてしまうと、自分の判断なのか、ほかの人の判断なのか、曖昧になってしまいます。

誤　クロード・モネの1907年の《睡蓮》は、睡蓮の葉にさまざまな色彩の筆触が並置されていることがみてとれる。「印象主義の究極の表現」[註1]である。

註1　島田紀夫著「V　近代美術：第6章　フランス印象派」千足伸行監修『新西洋美術史』西村書店，1999年，315ページより引用。

上記の例文では、まだ「　」でくくっているので、だれかの文章を引用したのだろうと推測できますし、註を見れば島田紀夫氏の意見ともわかりますが、これを参照扱いにしてしまうと、ますます、自分の判断なのか、曖昧になります。

誤　クロード・モネの1907年の《睡蓮》は、睡蓮の葉にさまざまな色彩の筆触が並置されていることがみてとれる。印象主義の究極の表現である。[註1]

註1　島田紀夫著「V　近代美術:第6章　フランス印象派」千足伸行監修『新西洋美術史』西村書店，1999年，315ページより引用。

これでは、註を見るまで、このレポートを書いた人の意見だと勘違いしてしまいますね。

註記をつけないと、さらにひどいかたちになり、自分の判断なのか、ほかの人の判断なのか、まったくわからなくなってしまいます。

誤　クロード・モネの1907年の《睡蓮》は、睡蓮の葉にさまざまな色彩の筆触が並置されていることがみてとれる。印象主義の究極の表現である。

どうも、みなさんのなかには、この最後のかたちを書けばよい、と誤解している人が少なくないようですが、まったくの誤りです。「執筆者の意見を記述した情報」を自分の判断の根拠に用いることはできません。また、学術的なレポートは、自分の判断を最終的に書くものであって、だれか、自分の意見の代わりにほかの人の意見を書くものでもありません。

以上に対して、島田紀夫氏の「印象主義の究極の表現である」という意見の根拠となった事実、「セーヌ河やノルマンディー海岸などに取材した風景画は、色調分割の技法を厳しく適応して光の反映や大気の震えまでを描こうとした」を用いれば、自分の判断を書くことも可能になります。

クロード・モネの1907年の《睡蓮》は、睡蓮の葉にさまざまな色彩の筆触が並置されていることがみてとれる。島田紀夫によれば、「セーヌ河やノルマンディー海岸などに取材した風景画は、色調分割の技法を厳しく適応して光の反映や大気の震えまでを描こうとした」[註1]という。このことが、この晩年の《睡蓮》にもあてはまると考えられる。

註1　島田紀夫著「V　近代美術：第6章　フランス印象派」千足伸行監修『新西洋美術史』西村書店，1999年，315ページを参照。

事実に基づいて判断するという知的な営みは、西洋美術史にかぎらず、大学で学ぶすべてにあてはまります。そして、この高度情報化社会において、もっとも重要なジェネリック・スキルのひとつです。この機会に、しっかりと理解してください。

……（以下省略）……

毎週レポートを課すという遠隔授業は、日本の学生にとってきわめて過酷だったと思う。しかし、欧米の大学ではあたりまえのことだ。毎年、「大学入門1」の「レポート対策講座(1)」の授業では、木下是雄氏の『レポートの組み立て方』のなかから「O嬢からの便り」というくだりを紹介している。これは、1年間米国の大学に留学した女子学生が現地でどのようにレポートの執筆法を学んだか、という内容だ。そのなかにこうある。

> この3ヵ月でいちばん苦労したのは「レポートの書き方（How to Write a Research Paper）」というコースです．このコースは私たち日本人学生にとっては地獄でした．アメリカでは小学生のころからこれに似た訓練がはじまっているのに，私たちはそういう教育を受けたことがなかったからです．
>
> ここでいうレポートは図書館その他で資料を調べて書くもので，大学に進むと毎週のようにレポートを書かされることになります．予備教育のクラスでの「レポートの書き方」では，レポートを書く手順や形式を，実際にレポートを書きながら学んでいくのです．

今回、コロナ禍を逆手にとって、欧米の大学ではあたりまえの「毎週のようにレポートを書」く授業をおこなった。「日本人学生にとっては地獄」のように過酷だったとは思うが、対面授業をおこなうことができた2019年度までの期末レポートに比べて、2020年度と2021年度の期末レポートの質はきわめて高いものになった。アクティヴ・ラーニングというと、教室でのグループ・ディスカションのイメージが強いが、「毎週のようにレポートを書」くということもアクティヴ・ラーニングである。欧米の大学の階段状になった大教室で教授と学生たちが丁々発止とやりあう光景がよくテレビなどで紹介されるが、この光景にいたるまでには「毎週のようにレポートを書」くというした準備がなされているのだ。

最後に、2021年度の前期最後の授業で学生たちにおくった言葉を紹介して終わりにしたい。

大学で西洋美術史を学んだら……

大学で西洋美術史を学んだら、どのようなことができるようになるのでしょうか？　前期の最後なので、少しまとめめいたことを最初に書いておきます。

千速自身は、大学で西洋美術史を学んだら、美術館や展覧会で初めて鑑賞する作品に対して、独自の見解を述べられるようになってくださるとよいと思っています。好き嫌いといった主観的な感想ではありません。その作品の描写内容と描写方法をていねいに観察し、それまでに身につけた知識と照合して、描かれた主題を理解したり、描いた画家やその流派を推測したり、さらにはその作品のもつ意義を述べたりすることができるようになることです。

みなさんの多くは、卒業後、アートやデザイン、エンタテインメントの世界で仕事をすることと思います。そのとき、企画を検討する作業のなかで、上司や同僚たち、クライアント、あるいはギャラリストやキュレーターなどから意見を求められます。この求めに応じて有意義な提案ができなければ、あなたの企画は実現しません。美術館や展覧会で初めて鑑賞する作品に対して独自の見解を述べることは、求めに応じて有意義な提案ができるようになるためのよい訓練になるはずです。

次に、これは西洋美術史に限られることではありませんが、情報の精査ができるようになってくだるとよいと思います。この「西洋美術史概説 A」では、註記や参照文献一覧の書き方について、細かく指導しました。高度情報化社会では、情報の精査がこれまで以上に重要だからです。

インターネット以前の時代、レポートを執筆する学生は、図書館で事典を調べ、美術全集を眺め、それから読むべき本や論文を探すしか、方法がありませんでした。そして、事典にしても、美術全集にしても、本や論文にしても、しかるべき専門家が執筆したものですから、その内容を疑う必要はほとんどありませんでした。新聞や雑誌も含めて、印刷媒体は専門家（プロフェッショナル）によってつくられてきました。今も、印刷媒体は専門家たちの手でつくられています。

ところが、インターネットの時代を迎え、わたしたちは厖大な情報の玉石混淆に直面しています。たとえば、「本サイトは、あなたに対して何も保証しません。本サイトの関係者（他の利用者も含む）は、あなたに対して一切責任を負いません。あなたが、本サイトを利用（閲覧、投稿、外部での再利用など全てを含む）する場合は、自己責任で行う必要があります。」とか、「コンテンツとして提供する全ての文章、画像、音声情報について、内容の合法性・正確性・安全性等、あら

ゆる点において保証しません。」などと明言しているウェブサイトが、不遜にも、Wikipediaという名で「百科事典」を自称しているのです。「本サイト」を「西洋美術史概説A」に置き換えて読んでみると、Wikipediaの恐ろしさが実感できるでしょう。それゆえ、厖大な情報の玉石混淆に直面するわたしたちには、これまで以上に情報を精査するスキルが求められています。このスキルも身につけてくださるとよいと思います。

最後に、これも西洋美術史に限られることではありませんが、臆することなく、英語による情報にも接してください。インターネットを通じて海外の美術館のウェブサイトも自由に閲覧できるようになりました。英語圏の国々ばかりでなく、フランスやドイツ、オランダやイタリアなど、世界各地の美術館や研究機関などが英語による有益な情報を提供しています。DeepLをはじめとする機械翻訳の精度もあがってきました。機械翻訳も活用し、積極的に海外からの情報を受け止めてほしいと思います。（なお、機械翻訳の登場によって英語を学習する意義がなくなったわけではありません。むしろ、対面による会話の重要性が高まりましたし、読解においてもより精緻な内容理解が必要になりました。老婆心ながら、申し添えておきます。）